

## 令和3年度展覧会

### 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」にふさわしい展覧会を開催する。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、自宅や海外からでも写真・映像文化を楽しめるよう、展示解説や作家による解説や対談など様々なオンラインコンテンツを発信し、鑑賞機会を創出する。

### ○感動を与える

観覧者に感動を与えらるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

### ○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

### ○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵(企画)展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

### ◇収蔵展

世界でも有数の3万6千点を超える写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

### (1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年テーマを設定し収蔵品を軸とした展覧会を開催している。今年度は「TOPコレクション 光のメディア」と題し、写真通史を網羅する当館コレクションより、19世紀中葉のウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットから現代まで選りすぐりの名品を紹介した。

### (2) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

日本における写真文化を紹介するため、写真発祥地をとらえた初期写真を核に、幕末・明治の姿を再構築する第二弾として「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」を開催した。本展では初期写真及び関連資料に基づく新たな切り口で再構成した。

### (3) 重点収集作家個展

白川義員の個展を2期に分けて開催した。第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、崇高で美しい日本の自然を紹介、第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、60年以上にわたり撮り続けてきた作品群の中から「天地創造」のイメージに合致する作品を一挙放出し、最新のデジタル技術とかつてないスケール感で再現した。

数多くの雑誌の表紙やグラビアを手がけ、写真家として時代を作り上げてきた篠山紀信の約60年にわたる創作活動を、2部構成でダイナミックに紹介した。「新・晴れた日」第1部(収蔵展)では写真界で注目を集めた1960年代の初期から70年代までの主要作品を紹介した。

世界各地の地表を独自の表現で写してきた松江泰治の個展「松江泰治 マキエタCC」を開催した。作家がこれまでに制作してきた代表作から、〈CC〉と〈makieta〉の2つのシリーズを、初公開となる新作を交えて紹介した。

### (4) 旬のミドルキャリア作家個展

国内外で活躍著しい、ミドルキャリア作家の個展。今年度はセルフ

ポートレイトの手法を軸に自ら「シャッターを押すことのない写真家」として、一貫して自らの姿や顔を表現の手段に制作を行ってきた澤田知子を取りあげた。

### (5) 映像展

映像・写真を主たるメディアとして2000年代から積極的に作家活動を進めてきた山城知佳子の個展「リフレーミング」を開催した。公立初めての個展となる本展では、初公開となる最新作と収蔵作品を中心とした代表作品とあわせて紹介した。

### ◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

### (1) 重点収集作家個展

篠山紀信の個展「新・晴れた日」第2部(自主企画展)では、1980年代以降の作品を中心に、バブル経済による変貌から2011年の東日本大震災を経て2021年に向かい再構築される東京の姿まで、変化の時代を紹介した。

### (2) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第18回となる本展は「記憶は地に沁み、風を越え」をテーマに、身体と土地、風景、そしてその記憶との関わり合いについて、多様なアプローチで追求する作家5組6名の写真・映像作品を紹介した。

### (3) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

動物たちの通り道に自作の赤外線センサー付きのロボットカメラを設置し、撮影困難な野生の姿を撮影した「けもの道」のシリーズなど、哺乳類、猛禽類の撮影において独自の分野を開拓した宮崎学の個展「宮崎学 イマドキの野生動物」を開催した。宮崎の半世紀近くにわたる活動の軌跡をたどりながら、黙して語らぬ自然の姿を浮き彫りにした。

メルボルン大学の協力を得て、同大学ナタリー・キング教授との共同企画による「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展を開催した。異なる歴史的背景や精神文化を持つふたつの国の写真・映像表現の多様性について、日豪を代表する8人の現代作家の作品から考察した。

### (4) 恵比寿映像祭

第14回となる今回は、「スペクタクル後」を総合テーマに、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、教育普及プログラム、野外展示、オンラインによるトークやシンポジウム等、多彩なプログラムを実現し、本フェスティバルのテーマを読み解くための「コンセプトブック」を刊行した。

### ◇誘致展

写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

## 白川義員写真展

### 永遠の日本 / 天地創造

Shirakawa Yoshikazu exhibition ;

### Eternal Japan / The Earth

期間：令和3年2月27日（土）～5月9日（日）21日間（令和3年4月1日以降の開館日数）  
（新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館に伴い4月25日から中止）  
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協力：凸版印刷株式会社／株式会社小学館

世界的写真家で、山岳写真家としても輝かしい実績を残す白川義員は、「地球再発見による人間性回復へ」を創作活動の基本理念として、地球がもつ美や神秘、荘厳さを追求し続け、1969年出版の『アルプス』以来、『ヒマラヤ』『アメリカ大陸』『聖書の世界』『中国大陸』『神々の原風景』『仏教伝来』『南極大陸』『世界百名山』『世界百名瀑』まで、10のシリーズを発表してきた。東京都写真美術館では白川義員の集大成となる2つのシリーズを二期構成で紹介した。

第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、日本人の誇りと魂を復興する一助になりたいという作家自身の願いが込められた、崇高で美しい日本の自然を紹介した。

第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、アメリカ西部の砂漠で、入域が1日わずか20人に限定されているザ・ウェーブや、中国の湖南省・張家界市に位置し、「仙境」と呼ぶにふさわしい武陵源など、いずれも近年発見された地域や、「奇跡の絶景」といわれ最近話題の南米ウユニ塩湖などを中心に構成した。白川が「アルプス」発表以降、50年以上にわたり撮り続けてきた作品群の中から「天地創造」のイメージに合致する作品を一挙放出し、最新のデジタル技術とかつてないスケール感で再現した。

出品作家：白川義員  
出品点数：326点（「永遠の日本」130点、「天地創造」196点）  
入場者数：12,629人（令和3年2月27日～4月24日）  
企画：関次和子

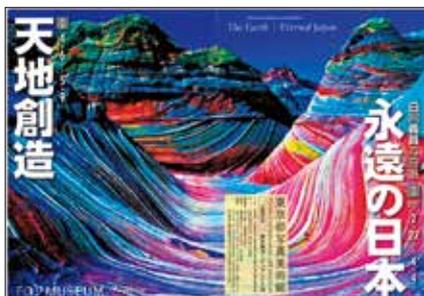
### 展覧会図録

『永遠の日本』

『天地創造』

執筆者：白川義員

編集・発行：永遠の日本撮影プロジェクト事務局、天地創造撮影プロジェクト事務局



## 澤田知子 狐の嫁いり

### Tomoko Sawada: To Be Bewitched by a Fox

期間：令和3年3月2日（火）～5月9日（日）21日間（令和3年4月1日以降の開館日数）  
（新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館に伴い4月25日から中止）  
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協力：株式会社堀内カラー  
助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

2000年にセルフポートレート作品《ID400》でキヤノン写真新世紀2000特別賞を受賞、2004年には木村伊兵衛写真賞を受賞し、現在も国内外で作品の発表を続け、国際的に高い評価を受けるアーティスト、澤田知子の国内初の大規模個展。澤田はセルフポートレートとタイポロジーの手法を軸に「シャッターを押すことのない写真家」として、自らの姿や顔を被写体として用い、制作を行ってきた。「内面」と「外見」の関係に関心を持ちながら、アイデンティティの在り方までもを探求し、制作を続ける、澤田の旺盛な制作活動を概観する本展では、新作《Reflection》を初公開するとともに、デビュー作《ID400》の世界の一つしか存在しない、作家が制作時に自動証明写真機で撮影したオリジナルを収蔵・展示した。

出品作家：澤田知子  
出品点数：13点  
入場者数：6,200人（令和3年3月2日～4月24日）  
企画：遠藤みゆき

### 展覧会図録

『澤田知子 狐の嫁いり』

執筆者：結城円、Marco Bohr、遠藤みゆき

編集：新庄清二

発行：青幻舎



## 新・晴れた日 篠山紀信

### A New Fine Day: Shinoyama Kishin

期間：令和3年5月18日（火）～8月15日（日）68日間  
（新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言後の都の緊急事態措置としての臨時休館に伴い5月18日から5月31日まで休止し、6月1日から開催）  
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

第2期重点収集作家篠山紀信の当館における初個展。第1部と第2部とに分けて、2フロアを使用した。

第1部では、1960年代から70年代における活躍を紹介。注目を集めた1960年代の代表作を厳選して紹介しながら、1974年に雑誌『アサヒグラフ』での連載〈晴れた日〉、1976年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館で展示を行った〈家〉、そして更なる飛躍の舞台となった雑誌『明星』の表紙ポートレートなど、計71点を展示し、60-70年代の写真史における位置づけを再検証した。

「第5波」と呼ばれた新型コロナウイルス新規感染者数が激増した時期と重なり、入館者数は影響を受けたものの、展覧会への注目度は高く、存在感を示した。

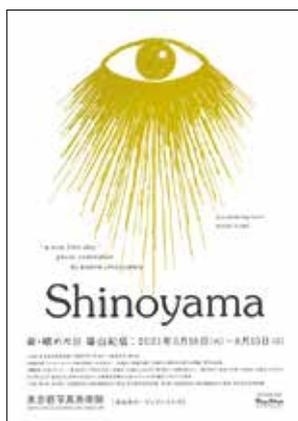
出品作家：篠山紀信  
出品点数：71点  
入場者数：16,304人  
企画：関昭郎

#### 展覧会図録

『新・晴れた日 篠山紀信』  
執筆者：関昭郎  
編集：東京都写真美術館  
発行：光村推古書院

#### ハンドアウト

『作品解説 篠山紀信』（B5判 24ページ）  
執筆者：篠山紀信  
編集・発行：東京都写真美術館



## 山城知佳子 リフレーミング

### Yamashiro Chikako:

### Reframing the land / mind / body-scape

期間：令和3年8月17日（火）～10月10日（日）49日間  
会場：地下1階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
／日本経済新聞社  
助成：公益財団法人花王・科学財団

映像・写真を主たるメディアとして、2000年代から精力的に作家活動を進めてきた山城知佳子（1976-）は、生まれ育った沖縄の歴史や地政学的状況と自身との関係に向き合うことを通じて、見過ごされ聞き過ごされてきた声や肉体、魂を伝える作品を手掛け、国内外で高く評価されてきた。公立美術館初個展となる本展では、初公開となる山城の最新作を、収蔵作品を中心とした過去の代表作品と組み合わせて紹介した。単に時系列に沿って作品の変遷をたどるのではなく、相互に共鳴する主題やモチーフの連なりを、展示室内を回遊しながら巡る構成とした。「リフレーミング」とは、ものごとを見ていくという、山城作品に通底する姿勢を象徴させた。本展は、映像アーティスト・山城知佳子のミドルキャリア個展として、その作品世界を総覧するはじめての本格的な機会となった。

出品点数：29点  
入場者数：7,889人  
企画：岡村恵子

#### 展覧会図録

『山城知佳子 リフレーミング』  
執筆者：岡村恵子  
編集：岡村恵子、藤村里美、多田かおり  
飛田陽子、関根慶（水声社）  
発行：水声社



## 松江泰治 マキエタCC

MATSUE TAJI: makietaCC

期間：令和3年11月9日（火）～令和4年1月23日（日）61日間  
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

世界各地の地表を独自の視点で写してきた松江泰治（1963年、東京都生まれ）の個展。

作家が撮影時に設けた、画面に地平線や空を含めない、被写体に影が生じない順光で撮影するといったルールは、写真の本質を問い直すような平面性を生み出している。本展では、作家がこれまでに制作してきた作品の中から、〈CC〉と〈makieta〉という二つのシリーズを、初公開となる新作も交えて紹介し、作家の現在地を示すとともに、その表現の可能性を探った。

出品作家：松江泰治  
出品点数：54点  
入場者数：13,661人  
企画：伊藤貴弘

### 展覧会図録

『松江泰治 マキエタCC』

執筆：フランツ・プリチャード、伊藤貴弘

編集：小寺規古、東京都写真美術館

発行：東京都写真美術館



## TOPコレクション 光のメディア

TOP Collection Light as Medium

期間：令和4年3月2日（火）～6月5日（日）26日間（令和4年3月31日までの開館日数）  
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

「TOPコレクション 光のメディア」展では、英語のフォトグラフ（Photograph）の語源が「光で描く」という意味を持つことに注目し、記録性を超えて生み出される「創造性」に焦点を当てる。このメディアの本質は光を支持体（紙など）に取り込むことにあり、写真誕生以来、アーティストたちは芸術表現の手段として、さまざまな表現形式を生み出し、不可視のエネルギーさえも画像につなぎとめようと試みた。本展では創造性あふれる29人のアーティストたちによる作品を、TOPコレクションに加え、アーティストやギャラリー、コレクターが所蔵する貴重な作品を集めて紹介する。

出品作家：アルフレッド・スティーグリッツ、アンセル・アダムス、マイナー・ホワイト、バーバラ・モーガン、ウォルター・チャペル、ジャロミール・ステファニー、ポール・カポニグロ、エメット・ゴウイン、エドモンド・テスケ、ハリー・キャラハン、ジェームズ・ウェリング、佐藤時啓、糸井潤、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、アンナ・アトキンス、クリスチャン・シャド、ラースロー・モホイ＝ナジ、マン・レイ、杉村恒、瑛九、ロール・アルバン＝ギヨー、田口和奈、杉浦邦恵、スーザン・ダージェス、アルヴィン・ラングドン・コバーン、ポール・ストランド、ヨゼフ・スデック、アンドレ・ケルテス、W.ユージン・スミス

出品点数：約100点  
入場者数：3,307人（令和4年3月31日現在）  
企画：鈴木佳子

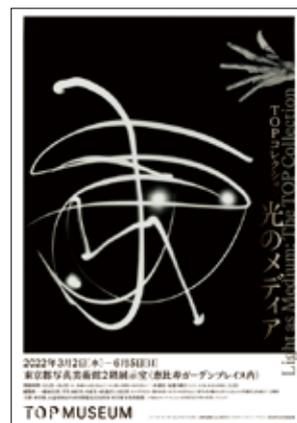
### 展覧会図録

『TOPコレクション 光のメディア』

執筆：日高優（英文和訳）、鈴木佳子

校閲・編集：山田真弓

発行：東京都写真美術館



## 写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて

### Geneses of Photography in Japan: Hakodate

期間：令和4年3月2日（火）～5月8日（日）26日間（令和4年3月31日までの開館日数）

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

日本に写真技術が伝来した地域をとらえた「写真発祥地の原風景」シリーズ展の第二弾として「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」を開催。19世紀中葉に江戸時代が終焉し、日本は西洋文化を取り入れた近代国家へと向かった。幕府が治める最北端の港湾都市であった箱館は、蝦夷地（現・北海道）の統治や紛争平定、外交といった行政の重要な役割を担い、幕末期に開港すると、ロシア人より伝えられた技術を起点に写真文化が華開いた。第一章では幕末から明治初頭における「はこだて」の歴史を写真および関連資料から概観。第二章では、制作者に焦点を当て、「はこだて」を撮影した写真家と、同時代に使用された写真技術を紹介。最終章では、幕末から明治へ移り変わる「はこだて」の街並みを初公開のパノラマ写真を含めた初期写真のオリジナルプリントによって展覧。箱館（近世）から函館（近代）へと移りゆく北方の港湾都市の文化を初期写真のオリジナルプリントによって再構築した。

出品作家：林子平、秋芳、ライムント・フォン・シュティルフリート、エリファレット・ブラウン・ジュニア、トマス・シンクレア、W・ハイネ、ヨシフ・アントノヴィチ・ゴシケーヴィチ、イワン・マホフ、江崎礼二、田本研造、永島孟斎、早川徳之助、月岡芳年、岩橋教章、紺野松次郎、池田種之助、阿部義一、児玉永成、浅野文輝、川瀬善一、木津幸吉、武林盛一、井田倭吉、野口源之助、エミル・ライスフェルト、堀内信重、錦古里孝治、石渡刀祢三、鹿野忠平、ポール・スタブラー、昌宣、村上貞助、トマス・ライト・ブラキストン、ヘンリー・ジェームズ・ストヴィン・プライヤー、鈴木真一、田本繁

出品点数：191点

入場者数：3,052人（令和4年3月31日現在）

企画：三井圭司

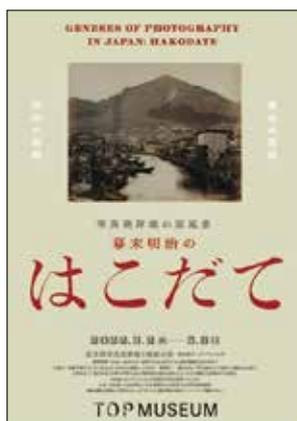
担当：遠藤みゆき

#### 展覧会図録

『写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて』

執筆者：大塚和義、高橋則英、大下智一、奥野進、三井圭司、遠藤みゆき

編集・発行：東京都写真美術館



## 自主企画展

### 新・晴れた日 篠山紀信

#### A New Fine Day: Shinoyama Kishin

期間：令和3年5月18日（火）～8月15日（日）68日間  
（新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言後の都の緊急事態措置としての臨時休館に伴い5月18日から5月31日まで休止し、6月1日から開催）  
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

篠山紀信は1980-90年代の出版文化全盛期に多くのメディアを独占するかのような活躍を見せた。この時期に複数の写真機をつなぎ合わせた「シノラマ」を発案し、変容する東京を舞台にその表現の可能性を試みた。また、雑誌『BRUTUS』での連載〈人間関係〉をはじめ、世代を超えて、新しく生まれる文化を記録する役割を担うこととなった。第2部ではこうした仕事に東日本大震災に取材した〈ATOKATA〉ほかを加え、1980年代以降の篠山紀信の知られざる一側面を紹介した。

「第5波」と呼ばれた新型コロナウイルス新規感染者数が激増した時期と重なり、入館者数に影響を受けたものの、展覧会への注目度は高く、存在感を示した。

展覧会への理解を深めるため、作家のインタビュー・ビデオ（約45分）を制作し、2階ロビーで、公開。また、YouTubeで配信用に「新・晴れた日 篠山紀信」作家インタビュー」（約13分）を制作、25,000人以上が視聴した。

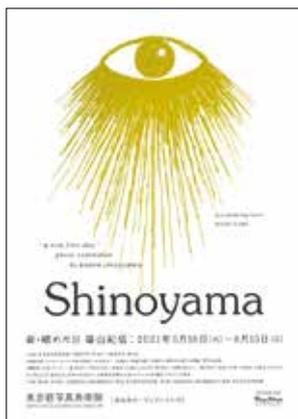
出品作家：篠山紀信  
出品点数：45点  
入場者数：16,238人  
企画：関昭郎

#### 展覧会図録

『新・晴れた日 篠山紀信』  
執筆者：関昭郎  
編集：東京都写真美術館  
発行：光村推古書院

#### ハンドアウト

『作品解説 篠山紀信』（B5判 24ページ）  
執筆者：篠山紀信  
編集・発行：東京都写真美術館



### リバーシブルな未来

#### 日本・オーストラリアの現代写真

#### Reversible Destiny

#### Australian and Japanese contemporary photography

期間：令和3年8月24日（火）～10月31日（日）61日間  
会場：3階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

特別協力：メルボルン大学

助成：オーストラリア大使館／豪日交流基金／公益財団法人 吉野石膏美術振興財団

協力：東京藝術大学

メルボルン大学の協力を得て、同大学教授ナタリー・キング氏との共同企画により本展を開催した。

当館では、「世界は歪んでいる。— Supernatural Artificial」展（2004年）や「オーストラリア現代作家 デスティニー・ディーコン」展（2006年）を開催し、オーストラリアの現代写真表現を日本で先がけて紹介してきたが、このようなオーストラリアとの継続的な文化交流の一環として、本展では両国を代表する現代写真を紹介した。日本とオーストラリアという二つの国にはそれぞれの歴史的背景があり、そこに住む人々は独自の精神文化を培っている一方で、想像をはるかに超える出来事が日々当たり前のように起こる現代では、私たちが国という枠を越えて共有できるものはますます多くなってきている。

本展の出品作品は、過去と未来、経験と未知、記憶と忘却、生と死など対立するものの間を行き来し、その循環から、新たな視座、可逆的な思考へと私たちを導き、現代社会における写真・映像表現の意義についての考察をもたらしてくれた。

出品作家：マレイ・クラーク、ローズマリー・ラング、ポリクセニ・パバペトロウ、ヴァル・ウェンズ、石内都、片山真理、畠山直哉、横溝静

出品点数：76点

入場者数：11,599人

企画：山田裕理、ナタリー・キング（メルボルン大学教授）

#### 展覧会図録

『リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真』

執筆者：トニー・バーチ、柴崎友香、  
ナタリー・キング、山田裕理

編集・発行：東京都写真美術館



## 宮崎学 イマドキの野生動物

Miyazaki Manabu Wild Animals Now

期間：令和3年8月24日（火）～10月31日（日）61日間  
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：信濃毎日新聞社  
協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／東京都写真美術館支援委員会  
協力：株式会社モンベル

宮崎学（1949-）は中央アルプスの麓、長野県上伊那郡南向村（現中川村）に生まれ、伊那谷の自然豊かな環境を活かし、1972年よりフリーの写真家として活動を開始し、「自然界の報道写真家」として、現在も日本中の自然を観察している。

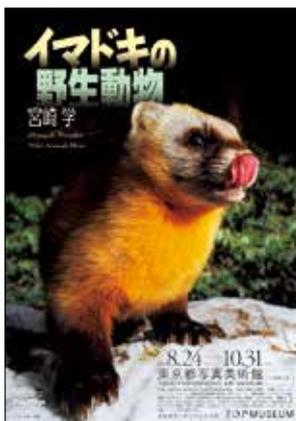
宮崎は動物たちの通り道に自作の赤外線センサー付きのロボットカメラを設置し、撮影困難な野生の姿を撮影した「けもの道」のシリーズなど、哺乳類、猛禽類の撮影において独自の分野を開拓してきた。また、人間の生活空間近くに出没する野生動物や、外来動物の影響など、動物の生態を通して人間社会を浮き上がらせる社会性のあるテーマにも取り組んでいる。

シリーズ最新作となる「新・アニマルアイズ」では、「動物たちの住む森を動物の目線で見ると」をコンセプトに、動物たちの痕跡を注意深く読み解き、自作のロボットカメラで人間の目が及ばない世界をみごとに写し出した。本展覧会は、半世紀近くにわたる宮崎の作家活動の軌跡をたどりながら、黙して語りぬ自然の姿を浮き彫りにした。

出品作家：宮崎学  
出品点数：210点  
入場者数：15,551人  
企画：関次和子

### 展覧会図録

『宮崎学 イマドキの野生動物』  
執筆者：宮崎学、水越武、関次和子  
編集・発行：東京都写真美術館



## 記憶は地に沁み、風を越え

日本の新進作家 vol. 18

Memories Penetrate the Ground and Permeate the

Wind

Contemporary Japanese Photography vol. 18

期間：令和3年11月6日（金）～令和4年1月23日（日）63日間  
会場：3階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞  
助成：芸術文化振興基金  
協賛：東京都写真美術館支援委員会  
協力：ソニーマーケティング株式会社

本展は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、新しい創造活動の展開の場として2002年より開催されている「日本の新進作家」展の18回目となる。本展では、「記憶は地に沁み、風を越え」をテーマとして、私たちの身体と土地、風景、そしてその記憶との関わり合いについて、多様なアプローチで追求する作家5組6名の写真・映像表現を紹介した。

グローバル化とボーダレス化のあり方が変容し続ける社会にあっても、歴史、風習、伝承など、それぞれの地域や土地特有の記憶は様々な形で遺り続け、そこには多様な価値観が存在している。しかしながら一方で、私たちの想いは、ときに風のような軽快さをもってあらゆる境界を越え、他者と向き合う方法を見出すことができる。本展の出品作品を通して、私たちと土地・風景との対話、またそこから生まれる他者との関わりを模索した。

出品作家：吉田志穂、潘逸舟、小森はるか+瀬尾夏美、池田宏、山元彩香  
出品点数：52点  
入場者数：13,784人  
企画：山田裕理

### 展覧会図録

『記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18』  
執筆者：山田裕理  
編集・発行：東京都写真美術館



## 第14回恵比寿映像祭

### Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2022

期間：令和4年2月4日（金）～令和4年2月20日（日）15日間

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京／日本経済新聞社  
共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館  
後援：株式会社TBSホールディングス／J-WAVE 81.3FM  
協賛：サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員

第14回恵比寿映像祭では、「スペクタクル後」をテーマに19世紀の博覧会や映画の歴史から現代にいたるイメージおよび映像表現について考察した。現代作家による展示や上映、イベントに加え、小原真史氏をゲスト・キュレーターに迎えた博覧会関連資料と当館コレクションによる企画や、気鋭の映像作家・遠藤麻衣子によるオンライン映画プロジェクト、さまざまな作品との出会いを拡げる教育普及プログラムなどの新たな構成によって、映像体験の可能性を探っていった。

### 展示 | 東京都写真美術館

#### ○3F展示室

小原真史企画「スペクタクルの博覧会」／リュミエール兄弟（オーギュスト・リュミエール&ルイ・リュミエール）とリュミエール社／平瀬ミキ／トーマス・エジソン、石川亮（キネトスコープ・35ミリフィルム）／ラウラ・リヴェラーニ、空音央／アマリア・ウルマン

#### ○2F展示室およびロビー

山谷佑介／三田村光土里／佐藤朋子／パンタグラフ／ひらのりょう

#### ○地下1階展示室

藤幡正樹／サムソン・ヤン／小田香

### ラウンジトーク | オンライン

三田村光土里／小田香／藤幡正樹、川嶋岳史／ラウラ・リヴェラーニ、空音央／サムソン・ヤン／石川直樹

### 上映 | 東京都写真美術館

#### ○1階ホール

空音央、ラウラ・リヴェラーニ《アイヌ・ネノアン・アイヌ》——新しい肖像画／佐々木友輔《映画愛の現在》三部作／アマリア・ウルマン レクチャー・パフォーマンス集／石原海《重力の光》と過去短編集——天国と地獄のランドスケープ／C.W.ウィンター&アンダース・エドストロム《仕事と日（塩谷の谷間で）》／新進作家短編集——現実と夢の揺らぎを紡ぐもの：ピー・ガン、川添彩、斎藤英里、池添俊／After the spectacleなアニメーション——DigiCon6 ASIA：オースミューカ（《アラウンドアラウンド》統括ディレクター）、パララムJ、原彰吾、プリンプ・スラパックピンヨー、バッターマ・ホームロード、伊藤瑞希、ショキール・コロコヴ、矢野ほなみ、チャン・サンウク、副島しのぶ、モタレブ・ラハマン・アカシュ、マリーヘ・ゴラームザーデ／アニミスティック・アパラタス (1) 【メー・アーダードン・インカワニット+ジュリアン・ロス・セレクション】：バトムボン・モン・テートラティーヴ、リアル・リザルディ、ジュアニアター・オンサーガ、シャムパピ・カウル、チューン・ミン・クイ+フレディ・ナドルニィ・プストシュキン／アノーチャ・スウィチャーゴーンボン特集——《暗くなるまでには》——アニミスティック・アパラタス (2) 【メー・アーダードン・インカワニット+ジュリアン・ロス・セレクション】／アノーチャ・スウィチャーゴーンボン特集——《ありふれた話》——アニミスティック・アパラタス (3) 【メー・アーダードン・インカワニット+ジュリアン・ロス・セレクション】

### ライブ・イベント | 東京都写真美術館

#### ○2階展示室

山谷佑介「パフォーマンス」

#### ○2階ロビー

トヨダヒトシ「映像日記／スライドショー」

#### ○1階ホール

usagingen「恵比寿ウサギニンゲン劇場—映像と音楽のライブパフォーマンス」

### シンポジウム | 東京都写真美術館

#### ○1階ホール

「スペクタクルの博覧会」：小原真史、中谷礼仁、佐野真由子 モデレーター：田坂博子

#### ○オンライン 視聴無料

[日仏会館共催企画]「スペクタクル後としての風景—浪江町の過去と未来の風景」：レミ・スコシマロ、渡部敏哉、モデレーター：澤田直、藤村里美

### オンライン映画

遠藤麻衣子《空》

### オフサイト展示

○恵比寿ガーデンプレイスセンター広場

WOW《モーション・モダリティ / レイヤー》

### YEBIZO MEETS 地域連携プログラム

公益財団法人日仏会館／MA2 Gallery／MuCuL／工房 親／NADiff a/p/a/r/t／MEM／AL／TRAUMARIS／アートフロントギャラリー／シアターギルド代官山／POETIC SCAPES／Rocky Shore

### YEBIZO MEETS 教育普及プログラム

- ①やさしい日本語による、じっくり見てみるガイド
- ②恵比寿映像祭を星占いガイド  
占星術：鏡リュウジ（占星術研究者）
- ③パンタグラフによるスペクタクルなワークショップ  
講師：井上仁行 [パンタグラフ]（出品作家）
- ④東京都写真美術館ボランティアによるアニメーションオープンワークショップ  
スタッフ：東京都写真美術館ボランティア
- ⑤映像祭を見て、聞いて、語る鑑賞ワークショップ（オンライン開催）  
講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ
- ⑥インスタライブ・ワンポイントナイトツアー

出品点数：62点（展示18点、上映10プログラム38点、ライブイベント4点、オンライン映画1点、オフサイト1点）

入場者数：43,875（うち、オンライン参加8,610）人

企画：田坂博子、多田かおり、伊藤貴弘、遠藤みゆき、藤村里美、武内厚子、鈴木彩子、池田良子、平澤綾乃、柳生みゆき

### コンセプトブック

執筆者：田坂博子、小原真史、藤幡正樹、長谷正人、メー・アンダードン・インカワニット

編集・発行：東京都写真美術館、内田伸一



日本写真家協会創立70周年記念写真展「日本の現代写真  
1985-2015」

「CONTEMPORARY JAPANESE PHOTOGRAPHY 1985-  
2015」

期間：令和3年3月20日（土・祝）～4月25日（日）21日間（令和3年4月1日以降の開館日数）  
（新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い4月25日から中止）  
会場：地下1階展示室

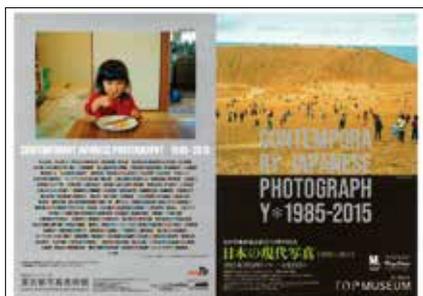
主催：公益社団法人日本写真家協会  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：文化庁  
特別協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社／凸版印刷株式会社／株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／株式会社ヨドバシカメラ  
協賛：株式会社アイデム／エプソン販売株式会社／O.Mデジタルソリューションズ株式会社／株式会社キタムラ／清里フォトアートミュージアム／株式会社ケンコー・トキナー／株式会社宏栄／株式会社コスモス インターナショナル／株式会社シグマ／株式会社セコニック／ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社（2021.5ソニー株式会社に社名変更）／株式会社日経ナショナルジオグラフィック／株式会社フレイムマン／株式会社山田商会／リコーイメージング株式会社／共進倉庫株式会社／株式会社写真弘社／フォトギャラリーインターナショナル／株式会社東京印書館

出展者数：152名152点（カラー83点、モノクロ69点）  
入場者数：5,330人（令和3年3月20日～4月24日）

創立70周年を迎え、これまでの「日本写真史1840-1945」や「日本現代写真史1945-1970」「日本現代写真史1945-1995」に続く4回目の写真史編纂を企画。1985年から2015年はフィルムからデジタルへと表現手段が変化したことにより、写真、そして映像全般を取り巻く環境が劇的に変化した時代。収集範囲は、フィルムで撮影し、主として印刷媒体や写真展等で発表されてきた1985～1994年、新しいデジタル技術を取り入れたカメラと印刷技術によるプリントワークの1995～2004年、撮影・プリント技術の殆んどがデジタル化され公表される時代へと進んだ2005～2015年の3期に分け、この30年間に発表された印刷物や写真展等から候補作品を抽出し、何がどう変わったのか、変動した写真表現の可能性、特異性を検討しながらまとめた。監修：田沼武能、編纂：飯沢耕太郎、上野修、鳥原学、関次和子、多田亜生、野町和嘉、松本徳彦。

写真展同名の写真集

『日本の現代写真1985-2015』  
編著：公益社団法人日本写真家協会  
発行：株式会社クレヴィス



第45回2020JPS展/第46回2021JPS展

2020 the 45th Exhibition of the JPS/2021 the 46th  
Exhibition of the JPS

期間：令和3年6月1日（火）～6月6日（日）6日間  
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本写真家協会  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：文化庁／東京都（2021）

公益社団法人日本写真家協会（略称JPS）は全国に1,400名余りの会員を擁する職業写真家の団体である。本展は当協会創立の翌年1951年に「日本写真家協会 第1回展」として開催し、1976年に「JPS展」と名称を新たにし、1977年からは一般公募を開始した。91年から写真学生を対象とした「ヤングアイ」にまで規模を拡げ、開催している。デジタル写真の急速で広範な発展が続くなか、JPS展に対する関心も高まり、毎年全国から多数の応募作品が集う。作品内容、技術水準も高く、写真展として高い評価を受け、今や写真家協会の活動の核のひとつとなり、写真の世界で注目されている。

2020JPS展 出品点数：295点（488枚）  
2021JPS展 出品点数：309点（452枚）  
入場者数：1,530人

展覧会図録

『第45回2020JPS展作品集』  
『第46回2021JPS展図録』  
発行：公益社団法人日本写真家協会



## 世界報道写真展2021

### World Press Photo 2021

期間：令和3年6月12日（土）～8月9日（月）53日間  
会場：地下1階展示室

主催：世界報道写真財団／朝日新聞社  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟  
協力：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

第64回目を迎える今回は、130の国と地域のフォトグラファー4,315人から計74,470点の応募があった。本展では、厳正な審査を経た約150点の入賞作品を紹介。今年は世界報道写真大賞にマッズ・ニッセン氏（デンマーク、ポリティケン／パノス・ピクチャーズ）の作品「初めての抱擁」が選ばれた。世界を駆け巡ったニュースや現代社会が抱える問題、スポーツの決定的瞬間など、同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を写真から知ることのできる貴重な展覧会となった。

出品点数：62点  
入場者数：12,651人

#### 展覧会図録

『WORLD PRESS PHOTO 2021』

編集：世界報道写真財団

発行：Lannoo Publishers



## 「写真新世紀2021」

### New Cosmos of Photography 2021

期間：令和3年10月16日（土）～11月14日（日）26日間  
会場：地下1階展示室

主催：キヤノン株式会社  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展の応募人数は2,191名。出品者数は22名（優秀賞7名、佳作14名、前年度グランプリ受賞者1名）。審査員：ライアン・マッギンレー（写真家）、オノデラユキ（写真家）、清水穰（写真評論家）、グエン・リー（シンガポール国際写真フェスティバルディレクター）、榎木野衣（美術評論家）、安村崇（写真家）、横田大輔（写真家）[敬称略]。関連イベントとして11月12日（金）「グランプリ選出公開審査会・表彰式」（会場：1階ホール）をはじめ、会期中にアーティスト・トーク、レクチャー、歴代受賞者によるスライドショーを開催した。

出品点数：130点  
入場者数：7,183人



## プリピクテ 東京展「FIRE / 火」

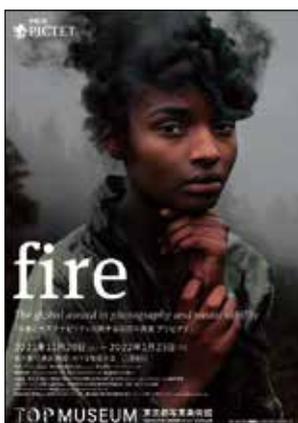
### Prix Pictet FIRE

期間：令和3年11月20日（土）～令和4年1月23日（日）51日間  
会場：地下1階展示室

主催：プリピクテ  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：在日スイス大使館

2008年、Prix Pictetにより設立された、世界の最も権威ある写真賞の一つである国際写真賞プリピクテ。約18ヶ月のサイクルで1つのテーマを設け、サステナビリティに関する議論や対話を引き出すことを目的としている。第9回目のテーマは「Fire/火」。本展では、今年の7月にアルル国際写真祭で発表された13名のショートリスト作家による作品を展示。ショートリストはジョアナ・ハジトマス&ハリー・ジョレイジュ、川内倫子、サリー・マン、クリスチャン・マークレー、ファブリス・モンテイロ、リサ・オッペンハイム、マク・レミッサ、カーラ・リップー、マーク・ラウエーデル、ブレント・スタートン、デヴィッド・ウヅチュクウ、横田大輔 [敬称略]。本展覧会中にイギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館で開催された「FIRE / 火」展のオープニングで発表された第9回国際写真賞をサリー・マンが受賞。関連イベントとして映像コンテンツの配信を行った。

出品数：93点  
出展者数：13人  
入場者数：10,112人



## APAアワード2022

### 第50回公益社団法人日本広告写真家協会公募展

### 50 Public Exhibition of Japan Advertising Photographers Association

期間：令和4年2月26日（土）～3月13日（日）14日間  
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：経済産業省／文化庁  
協賛：OMデジタルソリューションズ株式会社／キャノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／ソニー株式会社／ダイヤモンド株式会社／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／株式会社フレームマン  
協力：法人賛助会員各社

APAアワードは1961年から続く歴史ある公募展で、多くの写真家を輩出し、広告写真家への登竜門として役割を担っている。本展では、公益社団法人日本広告写真家協会が公募した写真作品部門の入賞入選作品のみを展示。今年度のテーマは「しゃしん」。2021年9月1日～9月30日までに応募された780作品、2117枚の中から128の作品が入賞入選。テーマの「しゃしん」から自らがイメージする「しゃしん」を表現したオリジナリティあふれる作品を展示した。

出品点数：128点  
入場者数：2,858人



## 本城直季 (un)real utopia

### Honjo Naoki: (un)real utopia

期間：令和4年3月19日（土）～5月15日（日）11日間（令和4年3月31日までの開館日数）

会場：地下1階展示室

主催：朝日新聞社／文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：株式会社サンエムカラー

協力：株式会社フレームマン／nap gallery

大判カメラの「アオリ」を利用して、都市の姿をジオラマのように撮影する独特の表現で知られる写真家・本城直季の初の大規模個展。本展では、2006年に木村伊兵衛写真賞を受賞した「small planet」シリーズをはじめ、独自の表現を生み出すまでの試行期の作品や、アフリカのサバンナを切り取った初公開シリーズ「kenya」、そして東日本大震災発生から3ヶ月後の東北を写した「tohoku 31」シリーズ、さらにはオリンピックイヤーの東京を被写体とした本展のための撮り下ろし作品など、未公開作を含む約200点を展示し、写真家・本城直季の目を通して見る私たちの“まち”の不思議を紹介した。

出品点数：244点

入場者数：1,821人（令和4年3月31日現在）

#### 展覧会図録

『本城直季 (un) real utopia』

執筆者：飯沢耕太郎、藤森照信、ポール・スミス、武内厚子

編集：朝日新聞社、井出幸亮

発行：朝日新聞社



スクールプログラム

東京都写真美術館では、児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や部活動、教職員研修等と連携したスクールプログラムを実施している。制作体験と作品鑑賞の両方を一度に体験できる当館のスクールプログラムは、表現と鑑賞の両面から、写真・映像の仕組みと楽しさを体験的により深く理解できる点が大きな特色となっている。

今年度は昨年度同様、コロナ禍にともなって、年度の前半は、展示室やスタジオでの大人数での活動も困難な状況が続くと判断され、また学校側でも校外学習の実施を控えていたことから、基本的に学校団体の受け入れを行わなかった。年度の後半においては、来館する学校団体の受け入れを再開した。

コロナ以前と比べて、プログラムの実施数は2年続けて減少したが、学校団体が来館して行う対面実施の他に、オンラインによる実施、出前授業の実施を行い、開催形態として3つの選択肢が確立したことは、将来的にも大きな意義をもっている。

今年度は東京都オリンピック・パラリンピック教育プログラムの一環として、希望する学校に対して出前授業を実施した。また新たな取り組みとして、TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクトの一環として、当館の教育普及プログラムが中心に制作した回転アニメーションWebアプリ「マジカループ」(ベータ版)を用いた授業も実施した。

実施回数：25回  
参加人数：844人

鑑賞体験プログラム

A. 対話型作品鑑賞

グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルのかたちと言葉を組み合わせるゲームを実施し、思ったことを自由に話すことや、友達と考えが違うことの楽しさを体験し、その後展示室での作品鑑賞を行う。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づけなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力などさまざまな力を育成するきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



制作体験プログラム

B. 手作りアニメーション体験—おどろき盤

おどろき盤(フェナキスティスコープ)とは、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマ描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みのもの。このプログラムでは、おどろき盤に絵を描いて、それを鑑賞することを通して、アニメーションの仕組みを楽しみながら体験的に学ぶことができる。また、どのようにしたら動いて見えるのかを観察し、自ら考える能動的学習、自身で描くことによってアニメーション表現を行う体験的理解、仲間と互いにおどろき盤を覗くことでのコミュニケーションを伴った学習という3つの学びを、楽しみながら行うことができる。



### C. 写真の制作体験—青写真

「暗室」という特別な施設を使用しなくても、写真の原点である「現像体験」ができるプログラム。深い青色を特徴とする「青写真(サイアノタイプ)」の写真方式によって、身の回りの様々な物体の影を、太陽の光で印画紙上に直接写し取る表現技法「フォトグラム」の制作を行う。使用する青写真印画紙は当館の自家製で、事前にスタッフが作ったものを授業では用いた。



### E. 回転アニメーションWebアプリ「マジカループ」

回転アニメーションWebアプリ「マジカループ」は主に図工・美術の授業におけるアニメーション教材としての活用を目的として、アニメーション作家バンタグラフの監修のもと、当館の教育普及プログラムが中心となって開発したデジタル教材である。東京都歴史文化財団の企画によるTOKYOスマート・カルチャー・プロジェクトの一環となっている。当館の「手作りアニメーション体験」教材として長年用いている「おどろき盤」は本来、19世紀に発明された映像装置である。児童・生徒が1人1台タブレットを使用できる学校環境を背景として「マジカループ」は、古い「おどろき盤」の原理を活用しつつ、現代のICT教育に適した教材の提供を目指した。小学生から中高生までがアニメーションの仕組みを楽しみながら学ぶことができる体験ツールとなっている。令和4年度の本格活用に向けて、今年度はこの教材のベータ版を用いた授業を実施した。



### D. 写真の制作体験—デジタルネガフィルムを用いたモノクロ銀塩プリント

デジタルネガフィルムは、デジタル写真画像を透明な専用素材にインクジェットプリンターで出力して制作できるため、デジタル時代に適したネガフィルムとなっている。スクールプログラムでは児童・生徒が暗室でのモノクロプリント制作に親しむことができるように、あらかじめ用意したデジタルネガフィルム(東京の名所風景)を用いて暗室を行う場合、または児童・生徒が自分で撮影した画像を使ったネガで暗室を行う場合の二通りの方法を用意している。

プログラムでは、1~2カットの画像を、段階露光や、フィルター調整、覆い焼きなどを行いながら何度もプリントを繰り返す、理想のプリントに近づけていく、暗室ならではの制作を行う。

## 令和3年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	対象・学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容	
1	6月4日(金)	14:00-15:45	東邦大学	大学生	授業	19	当館スタジオ	対話型作品鑑賞のレクチャー、スライドによる対話型作品鑑賞	
2	10月1日(金)	10:00-12:00	Ivy Prep International School (Steam Lab Tokyo)	6-14歳	授業	10	当館スタジオ	おどろき盤	
3	10月2日(土)	8:40-10:30	京華女子中学校	3年生	授業	40	オンライン授業	おどろき盤	
4	10月9日(土)	14:45-16:30	都立豊多摩高等学校	写真部	部活動	17	当館スタジオ	スライドによる対話型作品鑑賞	
5	11月2日(火)	16:00-17:10	目黒区立大鳥中学校	美術部	部活動	14	オンライン授業	おどろき盤	
6	11月6日(土)	14:00-16:00	都立志村学園	1-3年生	授業	14	来館当館スタジオ、2、3階展示室	青写真、「松江泰治」展、「日本の新進作家vol.18」展「写真新世紀」展 自由鑑賞	
7	11月13日(土)	14:45-16:30	都立豊多摩高等学校	写真部	部活動	19	当館スタジオ	青写真、暗室でのデジネガ密着焼き付け	
8	11月15日(月)	10:40-12:15	東村山市立南台小学校	5年生	図工	29	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞	
9	11月16日(火)	10:40-12:15	東村山市立南台小学校	5年生	図工	30	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞	
10	11月20日(土)	10:30-12:00/ 13:30-15:00	武蔵野美術大学	大学生	授業	49	当館スタジオ	概要説明 等	
11	11月26日(金)	10:40-15:05	葛飾区立よつぎ小学校	6年生	図工	67	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞	
12	11月27日(土)	14:00	帝京科学大学	大学生	授業	7	当館スタジオ	対話型作品鑑賞のレクチャー、スライドによる対話型作品鑑賞	
13	12月7日(火)	10:30-14:45	国分寺市立第一小学校	5年生	図工	67	同校(出前授業)	おどろき盤	
14	12月16日(木)	10:40-15:05	葛飾区立よつぎ小学校	5年生	図工	60	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞	
15	12月21日(火)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図工	68	当館スタジオ、2、3階展示室	「松江泰治」展、「日本の新進作家vol.18」展 展覧会見学	
16	12月23日(木)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図工	68	当館スタジオ、2、3階展示室	「松江泰治」展、「日本の新進作家vol.18」展 展覧会見学	
17	12月24日(金)	14:00-16:30	大妻高等学校	写真部	部活動	6	当館スタジオ	青写真、貸出用デジネガによるモノクロ銀塩プリント	
18	1月13日(木)	13:30-16:00	明治学院高等学校	写真部	部活動	7	当館スタジオ	モノクロ銀塩プリント(デジタルネガ)、青写真	
19	1月14日(金)	8:45-15:15	葛飾区立中青戸小学校	4年生	図工	87	オンライン授業	おどろき盤	
20	1月22日(土)	10:00-12:30	筑波大学付属駒場中学校	3年生	図工	7	当館スタジオ	スライドによる対話型作品鑑賞、青写真	
21	3月1日(火)	13:40-15:15	東村山市立南台小学校	4年生	図工	30	同校(出前授業)	おどろき盤WEBアプリを用いた授業	
22	3月2日(水)	8:25-10:00	東村山市立南台小学校	4年生	図工	31	同校(出前授業)	おどろき盤WEBアプリを用いた授業	
23	3月6日(日)	13:00-16:00	都立世田谷泉高校	写真部・美術部	部活動	15	当館スタジオ	スライドによる対話型作品鑑賞	
24	3月8日(火)	10:40-15:15	北区立田端小学校	6年生	図工	56	同校(出前授業)	おどろき盤WEBアプリを用いた授業	
25	3月15日(火)	10:40-12:20	北区立田端小学校	6年生	図工	27	同校(出前授業)	おどろき盤WEBアプリを用いた授業	
						合計	25回	844人	

パブリックプログラム事業は、体験的なプログラムによって、様々な世代、多様な関心のあり方に応じて、参加者の写真・映像への理解と学びを促進すること、生きる力やコミュニケーション力を高めるきっかけを創出することを目的としている。また加えて、あらゆる人が参加可能なプログラムを実施することで、様々な背景を持つ人々が美術館を楽しみ、学ぶ機会の提供を目指している。令和3年度はコロナ禍における事業実施も2年目を迎え、オンライン開催を中心として参加者との新しいコミュニケーションの在り方を実践しつつ、年度の後半では部分的にはあるが、対面でのプログラム実施も再開した。

実施回数 22回

参加人数 695人

●QRコードミッション 春休みTOP MUSEUM

来館者がスマートフォンを手に、館内複数箇所に掲示されたQRコードを手掛かりとして、YouTube上の動画コンテンツにアクセスし、ミッションをクリアする館内回遊型バーチャル・イベント。動画はこのプログラムのために期間限定でアップロードしたもので、収蔵作品や制作系・鑑賞系体験プログラムの内容についてTOP MUSEUMを楽しむ、学ぶためヒントを来館者に紹介した。



●おうちでワークショップ [青写真] ー太陽の光で影を写しとるー 体験セットの郵送配布

夏休みの小中高生とその保護者を対象に、「青写真体験セット」を郵送し、それぞれがご自宅で作品制作を行ってもらうプログラム。青写真(サイアナタイプ)は、他の写真技法と比べて比較的容易に印画できるため、太陽の光で様々な素材を写し取る制作に適している。「体験セット」の内容は、当館パブリックプログラム特製の青写真印画紙3枚、素材として使用できる漂白した葉っぱ1枚、作り方のプリント1枚から成る。各自が制作した作品の画像を、美術館にメール送信してもらい、青写真作品を集めた記録(スライドショー)を制作、YouTubeチャンネル「東京都写真美術館 教育普及プログラム」で公開した。



●写真美術館ボランティアによる対話型鑑賞会(オンライン開催) 対話型作品鑑賞のファシリテーター研修を受けた当館のボランティアスタッフがナビゲーターを務める鑑賞会。当館の収蔵作品から、ナビゲーターとなるボランティア自身がそれぞれ参加者に鑑賞して

もらう作品を選んだ。今年度初実施で合計4回行った。参加者がお互いの発言を共有し、対話を交えて作品を見ることで、より深い鑑賞を体験することができ、対話型作品鑑賞が初めての方でも気軽に参加できるものとなった。



●「写真家・宮崎学さんにお話しをきく」(オンライン開催)

「宮崎学 イマドキの野生動物」展に関連し、小学3年生から6年生とその保護者を対象とするオンライン・イベントを開催した。出品作家の宮崎学さんから、ご自身の仕事や作品、自然と人間との関わりについて、展示作品を見ながらお話をうかがい、参加者からの質問にも答えてもらう貴重な機会となった。



●モノクロ銀塩プリントワークショップ

初めての方が気軽に写真現像を体験できる暗室施設をもつ当館の特色を生かして、1999年以来、不定期ではあるが継続して開催してきた制作系ワークショップ。コロナ禍以降はしばらく開催できなかったが、今年度は感染対策をとって参加人数を大きく制限した小規模な形ながら、2年ぶりの対面開催を実現した。参加者が持参したネガフィルムから、それぞれがイメージする写真の仕上がりを目指して、当館スタッフのアドバイスのもとモノクロプリントを制作してもらった。



●写真のプレゼンテーションを学ぶ(オンライン開催)

「写真とコミュニケーション」について考えるプログラム。ゲスト講師と当館学芸員をナビゲーターとして、参加者自身によるプレゼンテーション、講師との対話を通して思考とコミュニケーションを深め、写真との関わり方を広げるきっかけとなることを目指した。

●TOP写真部 オンライン体験会

放課後の中学生・高校生を対象として、写真美術館ならではの写真・映像の制作・鑑賞体験にふれてもらうための新しいプログラム。今年度は試行的に「オンライン体験会」として実施した。

●インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催)  
「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」を講師とする鑑賞プログラム。障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、ことばを交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップ。見える人と見えない人の2人のナビゲーターとともに、見えていることや感じていることを言葉にして伝え合いながら作品を鑑賞した。今年度は「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展、「松江泰治 マキエタCC」展、「記憶は地に沁み、風を越え日本の新進作家vol.18」展、「TOPコレクション 光のメディア」展をテーマに、オンラインで計6回開催した。

※「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」を講師とする鑑賞プログラムは、第14回恵比寿映像祭の関連プログラムとしても開催した。

●手話通訳による展覧会トーク

手話を必要とする方を対象に、手話通訳を交えて、開催中の展覧会の見どころを展覧会担当学芸員が分かりやすく解説するプログラム。「松江泰治 マキエタCC」展、「記憶は地に沁み、風を越え日本の新進作家vol.18」展で実施した。展覧会場でのコミュニケーションが困難な状況が続く中で、小人数グループのみを対象として実施した。



令和3年度 パブリックプログラム実績 (インクルーシブプログラム、バリアフリープログラムを含む)

プログラム名	講師	開催日	参加人数	参加費	備考
1 QRコード・ミッション 春休みTOP MUSEUM		令和3年4月1日(木)~11日(日)	93	無料	
2 おうちでワークショップ「青写真」体験セットの郵送配布	当館スタッフ	令和3年7月19日(月・祝)~23日(金)	496	無料	
3 写真美術館ボランティアによるはじめての方のための対話型鑑賞会(オンライン開催)	当館ボランティア	令和3年8月29日(日)	9	無料	
4 インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年9月5日(日)	7	無料	「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展
5 オンライン・プログラム 写真家・宮崎学さんにお話をきく(小学3-6年生とその保護者対象)	宮崎学(写真家)	令和3年10月23日(土)	20	無料	「宮崎学」展
6 インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年11月23日(火・祝)	7	無料	「松江泰治」展
7 手話通訳による展覧会トーク Aコース	山田裕理(当館学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	令和3年12月16日(木)	3	無料	「日本の新進作家vol.18」展
8 写真美術館ボランティアによる対話型鑑賞会(ファミリー、グループオンライン参加コース)	当館ボランティアスタッフ	令和3年12月18日(土)	5	無料	「松江泰治」展、「日本の新進作家vol.18」展
9 手話通訳による展覧会トーク Bコース	伊藤貴弘(当館学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	令和3年12月23日(木)	5	無料	「松江泰治」展
10 写真美術館ボランティアによる対話型鑑賞会(ひとりできっくりオンライン参加コース)	当館ボランティアスタッフ	令和3年12月25日(土)	3	無料	「松江泰治」展、「日本の新進作家vol.18」展
11 手話通訳による展覧会トーク Cコース	伊藤貴弘(当館学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	令和4年1月6日(木)	1	無料	「松江泰治」展
12 インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和4年1月10日(月・祝)	7	無料	「日本の新進作家vol.18」展
13 手話通訳による展覧会トーク Dコース	山田裕理(当館学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	令和4年1月13日(木)	4	無料	「日本の新進作家vol.18」展
14 インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和4年1月16日(日)	2	無料	「日本の新進作家vol.18」展
15 モノクロ銀塩プリントワークショップ Aコース	当館スタッフ	令和4年1月20日(木)	4	一般4,000円／学生3,000円／中高生1,500円	
16 モノクロ銀塩プリントワークショップ Bコース	当館スタッフ	令和4年1月21日(金)	2	一般4,000円／学生3,000円／中高生1,500円	
17 インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催) 一般コース	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和4年3月21日(月・祝)	10	無料	「TOPコレクション 光のメディア」展
18 写真のプレゼンテーションを学ぶ(オンライン開催)①	菅沼比呂志(インディペンデント・キュレーター)、小島ひろみ(当館学芸員)	令和4年3月24日(木)	2	無料	
19 写真のプレゼンテーションを学ぶ(オンライン開催)②	菅沼比呂志(インディペンデント・キュレーター)、小島ひろみ(当館学芸員)	令和4年3月25日(金)	4	無料	
20 TOP写真部 オンライン体験会	当館スタッフ	令和4年3月26日(土)	5	無料	高校生/中学生
21 【高校生・大学生対象】インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和4年3月27日(日)	4	無料	「TOPコレクション 光のメディア」展
22 TOP写真部 オンライン体験会	当館スタッフ	令和4年3月29日(火)	2	無料	高校生/中学生
合計 22回 695人					

## 「色と形と言葉のゲーム」

対話型作品鑑賞の効果を高めるために、そのウォーミングアップとして実施している当館のオリジナル教材「色と形と言葉のゲーム」を、平成31年度に学校をはじめ多くの方々にも使っていただけるように製品化及び実用新案登録し、ミュージアムショップで販売した。

内容物：

- ① 色と形のカード 12色、21種類
  - ② 言葉のカード 80種類
  - ③ 解説冊子「あそびかたガイド」 1冊
- 価格4,150円（税抜）



色と形のカード



色と形と言葉のゲーム パッケージ



解説冊子「あそびかたガイド」  
(photo Ryosuke Yamahiro)



スクールプログラムでの活用の様子

スクールプログラムでの児童の感想

- ・形や言葉が同じでも人によっては感じ取り方が違うことがわかって、人それぞれなんだと思った。
- ・みんなで意見を出し合ったり、理由を言ったりすることで、「なるほど!」と思えたり、「今度はあの人みたいなのを一つつけてみよう」なんて思ったりして、ドキドキワクワクの楽しいゲームだった。

- ・人によって見方や考え方は違うのだと実感した。
- ・答えのないゲームや鑑賞だったので、ずっと話せると思った。
- ・自分の意見をみんなに言って納得してもらえたときは嬉しかった。

## 回転アニメーションWebアプリ「マジカループ」

児童・生徒が1人1台タブレットを使用できる学校環境を背景として現代のICT教育に適したデジタル教材「マジカループ」を開発した。東京都歴史文化財団の企画によるTOKYOスマート・カルチャー・プロジェクトの一環。立体アニメーションを手がける美術作家パンタグラフによる監修のもと、当館の教育普及プログラムが制作統括を行った。各学校で使用している情報端末OSの種類に関わらず、またダウンロードも不要なWebアプリの形式をとることで、様々なデジタル環境に対応できるようにした。このWebアプリの専用サイトにアクセスして、図工・美術の授業や部活動等において、遠隔でも使用することが可能で、小学生から中高生までがアニメーションの仕組みを楽しみながら学ぶことができる体験ツールとなっている。

※タブレット端末での利用を推奨。インターネット通信環境が必要。

各メニュー

「デジタルでつくる」

スタンプ機能、ドロー機能を用いて、回転アニメーションの作画、再生・データを保存することができる。

「アナログでつくる」

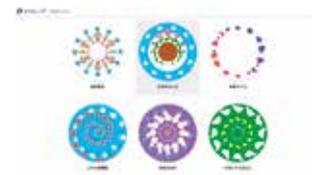
回転アニメーションを手描きするための「円形ガイド」を印刷し、絵や図柄を描いたら各端末のカメラで撮影してアプリで回して見ることができる。

「作品例をみる」

回転アニメーションの制作例を静止画、動画で紹介する。

●専用Webサイト「図工・美術×アニメーション」

アニメーションをたのしむ、まなぶためのデジタル教材「マジカループ」のプラットフォーム。



## 講演会等

展覧会の理解を深めるためのアーティストトーク等は、ソーシャルディスタンスを考慮し1階ホールや2階ロビーなどで安全に実施したほか、状況に応じてオンラインでも配信した。

### 【自主企画展・収蔵展】

展覧会名・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
白川義員写真展 永遠の日本/天地創造	アーティスト・トーク	「白川義員 前人未到の旅路を語る」	令和3年4月24日(土) 令和3年4月25日(日)	白川義員(出品作家) 臨時休館により中止	95 —
新・晴れた日 篠山紀信	アーティスト・トーク		令和3年6月19日(土)	篠山紀信(出品作家)	85
宮崎学 イマドキの野生動物	アーティスト・トーク 「自然から学ぶ4日」	テーマ「展覧会から考える イマドキの野生動物」	令和3年9月11日(土)	宮崎学(出品作家)	84
		テーマ「黙して語らない自然から学ぶ」	令和3年9月12日(日)	宮崎学(出品作家)	81
		テーマ「間違いだらけの環境問題」	令和3年10月9日(土)	宮崎学(出品作家)	190
		テーマ「獣害ってなんだろう」	令和3年10月10日(日)	宮崎学(出品作家)	188
記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家vol.18	アーティスト・クロストーク	アーティスト・クロストーク	令和3年12月17日(金)	小森はるか+瀬尾夏美×山元彩香(すべて出品作家)	45
			令和4年1月7日(金)	吉田志穂×潘 逸舟(すべて出品作家)	19
			令和4年1月14日(金)	潘 逸舟×池田 宏(すべて出品作家)	32
松江泰治 マキエタCC		作家とゲストによる対談	令和4年1月8日(土)	松江泰治(本展出品作家)、清水穰(批評家)	57
ラウンジトーク	ラウンジトーク【オンライン配信】			三田村光土里(展示出品作家)	175
				小田香(展示出品作家)	127
				藤幡正樹(展示出品作家)	120
				ラウラ・リヴェラーニ、空音央(展示・上映出品作家)	214
				サムソン・ヤン(展示出品作家)	122
				石川直樹(地域連携プログラム出展作家)	433
シンポジウム	スペクタクルの博覧会		令和4年2月6日(日)	パネリスト:小原真史(ゲスト・キュレーター、東京工芸大学准教授)、中谷礼仁(早稲田大学教授、建築史家)、佐野真由子(京都大学大学院教育学研究科教授、万博研究会代表) モデレーター:田坂博子(第14回恵比寿映像祭ディレクター、当館学芸員)	82
				[日仏会館共催企画] スペクタクル後としての風景—浪江町の過去と未来の風景【オンライン配信】	令和4年2月4日(金)より配信
第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後	上映関連ゲストトーク	空音央&ラウラ・リヴェラーニ《アイヌ・ネアン・アイヌ》—新しい肖像画	令和4年2月4日(金)	清水裕(ゲスト・プログラマー)、空音央(出品作家)	55
			令和4年2月18日(金)	清水裕(ゲスト・プログラマー)、空音央(出品作家)、ラウラ・リヴェラーニ(出品作家)、関根摩耶(映画出演者)	70
			令和4年2月12日(土)	佐々木友輔(出品作家)	197
			令和4年2月9日(水)・13日(日)・17日(木)	アマリア・ウルマン(出品作家)	242
			令和4年2月13日(日)	石原海(出品作家)	185
			令和4年2月8日(火)	山田亜樹(ゲスト・プログラマー)、副島しのぶ(出品作家)、伊藤有志(アニメーション作家)	30
			令和4年2月6日(日)	清水裕(ゲスト・プログラマー)、池添俊(出品作家)、斎藤英理(出品作家)	121
			令和4年2月10日(木)	清水裕(ゲスト・プログラマー)、ビー・ガン(出品作家)	74
			令和4年2月18日(金)	清水裕(ゲスト・プログラマー)、川添彩(出品作家)、山本圭将(映画出演者)	163
			令和4年2月5日(土)	メー・アーダードン・インカワニット、ジュリアン・ロス(ゲスト・プログラマー)	55
ライブ・イベント	恵比寿ウサギニンゲン劇場—usagingen 映像と音楽のライブパフォーマンス	令和4年2月19日(土)	Usagingen(出品作家)、中嶋興(メディア・アーティスト)	111	
YEBIZO MEETS 教育普及プログラム	インスタライブ・ワンポイントナイトツアー【オンライン配信】	パンタグラフによるスペクタクルなワークショップ	令和4年2月12日(土)	井上仁行(出品作家)	9
		東京都写真美術館ボランティアによるアニメーションオープンワークショップ	令和4年2月13日(日)	当館ボランティア	19
		映像祭を見て、聞いて、語る鑑賞ワークショップ【オンライン開催】	令和4年2月19日(土)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	6
		令和4年2月4日(金)	アーティストとめぐる ゲスト:ひらのりょう	256	
		令和4年2月9日(水)	地域連携プログラム ゲスト:住吉智恵、滝戸トリタ	225	
		令和4年2月10日(木)	カフェ「フロムトップ」 上映プログラム	153 151	
		令和4年2月12日(土)	アーティストとめぐる ゲスト:パンタグラフ ミュージアムショップ「NADiff BAITEN」	121 171	
		令和4年2月13日(日)	アーティストとめぐる ゲスト:平瀬ミキ	145	
令和4年2月15日(火)	展覧会をガイドするアイテム紹介	150			
		令和4年2月17日(木)	オフサイト展示	80	
参加人数合計 5,221人					

【誘致展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
写真新世紀展 2021	アーティスト・トーク	2021年10月17日(日)	第一部 2021年度佳作受賞者14名による作品紹介とスライドショー 第二部 2021年度優秀賞受賞者7名と2020年度グランプリ受賞者による作品紹介、制作に関するプレゼンテーション	123
	グランプリ選出公開審査会、表彰式	2021年11月12日(金)		136
	写真レクチャー/トークショー	2021年11月13日(土)	第一部 14:00~15:00 講演:横田大輔 第二部 15:30~16:30 講演:安村崇	171
	歴代受賞者によるスライドショー	2021年11月14日(日)	真治一樹(2004年度[第27回公募]、2019年度[第42回公募]佳作)、木戸孝子(1998年度[第17回公募]佳作)、松本卓也(2015年度[第38回公募]優秀賞)、山崎雄策(2014年度[第37回公募]優秀賞)、THE COPY TRAVELERS 迫鉄平(2015年度[第38回公募]グランプリ)、上田良(2015年度[第38回公募]佳作)、加納俊輔(2011年度[第34回公募]佳作)、金子亜矢子(1994年度[第9回公募]優秀賞)、池田宏彦(1998年度[第17回公募]優秀賞)中村ハルコ(2000年度[第21回公募]グランプリ)、山内悠(2008年度[第31回公募]佳作)、須藤絢乃(2014年度[第37回公募]グランプリ)、奥山由之(2011年度[第34回公募]優秀賞)	99
本城直季 (un)real utopia	オープニング記念トーク	2022年3月19日(土)	本城直季(出品作家)、武内厚子(当館学芸員)	71
参加人数合計 600人				

## 動画配信

### 【収蔵展・自主企画展】

在宅で展覧会を楽しんで頂くため、動画配信を積極的に推進した。

展覧会・事業名	内容	講師等	視聴回数*
白川義員写真展 永遠の日本/天地創造	作家インタビュー	白川義員 (出品作家)	4,472
	アーティスト・トーク「白川義員 前人未至の旅路を語る」	白川義員 (出品作家)	568
	展示風景		453
澤田知子 狐の嫁いり	作家インタビュー	澤田知子 (出品作家)	3,637
	展示風景		22,754
新・晴れた日	作家インタビュー	篠山紀信 (出品作家)	25,878
山城知佳子 リフレーミング	展示風景		3,482
	作家インタビュー	山城知佳子 (出品作家)	1,292
	バーチャルイングリッシュギャラリーツアー	川口隆夫 (パフォーマンス・アーティスト)	401
	オンライン関連トーク①「山城知佳子作品と沖縄 新城都夫氏 (琉球大学教授)を迎えて」	新城都夫 (琉球大学教授)、山城知佳子 (出品作家)、岡村恵子 (企画担当/東京都現代美術館学芸員)	527
	オンライン関連トーク②「山城知佳子作品と身体性 川口隆夫氏を迎えて」	川口隆夫 (パフォーマンス・アーティスト)、山城知佳子 (出品作家)、岡村恵子 (企画担当/東京都現代美術館学芸員)	337
	オンライン関連トーク③「『リフレーミング』を読み解く 砂連尾理氏を迎えて」	砂連尾理 (振付家・ダンサー)、山城知佳子 (出品作家)、岡村恵子 (企画担当/東京都現代美術館学芸員)	308
	展示風景		1,011
リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真	オンライン 国際シンポジウム「世界的に不確かな時代において、写真は今どのような意味をもっているだろうか？」 プログラム1 (10/15)	[インタビュー] 石内都、マレイ・クラーク、片山真理 (すべて出品作家)、オリンピア・ネルソン (出展作家ポリクセニ・パバベトウ氏のご息女) ナタリー・キング (共同企画者)	1,033
	オンライン 国際シンポジウム「世界的に不確かな時代において、写真は今どのような意味をもっているだろうか？」 プログラム2 (10/16)	[インタビュー] ヴェル・ウェンズ、横溝静、畠山直哉、ローズマリー・ラング (すべて出品作家) ナタリー・キング (共同企画者)	573
	オンライン 国際シンポジウム「世界的に不確かな時代において、写真は今どのような意味をもっているだろうか？」 プログラム3 (10/17)	[ミニレクチャー・討論] 片岡真実 (森美術館館長、国際芸術祭「あいち2022」芸術監督)、ナタリー・キング (共同企画者)、山田裕理 (当館学芸員)	375
宮崎学 イマドキの野生動物	作家インタビュー	宮崎学 (出品作家)	1,213
	アーティスト・トーク「自然から学ぶ4日」	宮崎学 (出品作家)	1,609
記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家vol.18		吉田志穂 (出品作家)	3,470
		潘逸舟 (出品作家)	
	作家インタビュー	小森はるか+瀬尾夏美 (出品作家)	
		池田宏 (出品作家)	
		山元彩香 (出品作家)	2,225
松江泰治 マキエタCC	PR動画		2,142
第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後		三田村光土里 (展示出品作家)	238
		小田香 (展示出品作家)	178
	ラウンジトーク 【無観客・オンライン配信】	藤幡正樹 (展示出品作家)	150
		ラウラ・リヴェラーニ、空音央 (展示・上映出品作家)	246
		サムソン・ヤン (展示出品作家)	132
		石川直樹 (地域連携プログラム出展作家)	550
	シンポジウムB. [日仏会館共催企画] スペクタクル後としての風景—浪江町の過去と未来の風景 【無観客・オンライン配信】	パネリスト: レミ・スコシマロ (トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学准教授、日仏会館・フランス国立日本研究所協力研究員)、渡部敏哉 (写真家) モデレーター: 澤田直 (フランス哲学・文学者、立教大学教授、日仏会館常務理事)、藤村里美 (恵比寿映像祭キュレーター、当館学芸員)	353
オンライン映画 遠藤麻衣子《空》(ライブ配信含む) ※視聴は3月3日まで		7,179	
視聴回数合計 86,786回			

※令和4年3月31日現在

## 東京都写真美術館 教育普及ボランティア

今年度はコロナ禍での教育普及活動も2年目を迎えた。各プログラムの参加人数を制限し、ソーシャル・ディスタンスや感染対策を十分にとった上での対面開催をはじめ、Zoomを活用したオンライン開催、各学校への出前授業といったアウトリーチ活動といったように、活動は「美術館」という施設の枠にとらわれず、以前よりも多様な形式をとるようになった。ボランティアの活動の場もまた、それに応じて美術館内、訪問先の学校、Zoomでの仮想空間と多様な広がりを見せている。

以前よりも活動の機会が限られているとはいえ、今年度はボランティアがナビゲーターを務める「写真美術館ボランティアによる対話型作品鑑賞」を初めて実施したり、恵比寿映像祭の教育普及プログラムとして「写真美術館ボランティアによるアニメーションオープンワークショップ」をボランティアが中心となって運営するなど、ボランティア活動の幅を広げた。またオンラインおよび対面での研修の機会を増やすことによって、各登録者の参加意欲や学びの意識を高める工夫を行った。

### 1 登録者数

令和2年度から更新登録者 65名

新規登録者13名

合計78名

### 2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数33回 1か月平均 2.75回

のべ活動人数 99人(ただしボランティア研修会をのぞく)

年間一人あたり 約1.26回

パブリックプログラム活動 13回

スクールプログラム活動 19回

恵比寿映像祭 1回

### 3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 20回(うち自主研修会14回)

のべ参加者数 93人(うち自主研修会43人)

令和3年5月30日(日) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年6月12日(土) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年6月26日(土) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年7月4日(日) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年7月11日(日) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年7月22日(木・祝) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年8月15日(日) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年9月17日(金) ボランティア自主研修会  
(スタジオ・暗室開放)

令和3年9月19日(日) ボランティア自主研修会  
(スタジオ・暗室開放)

令和3年10月17日(日) 新規ボランティア研修会(実技系)

令和3年10月22日(金) 新規ボランティア研修会(実技系)

令和3年10月30日(土) 新規ボランティア研修会(鑑賞系)

令和3年11月13日(土) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年11月27日(土) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年12月4日(土) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和3年12月11日(土) 対話型鑑賞自主研修会

講師：当館学芸員

令和4年1月9日(日) ボランティア自主研修会

(スタジオ・暗室開放)

令和4年2月19日(土) マジカループ研修(オンライン)

令和4年3月3日(木) マジカループ研修(オンライン)

令和4年3月5日(土) バリアフリー研修会「やさしい日本語」

講師：有田玲子(東京にほんごネット代表)

(2) ボランティア連絡会(オンライン開催)3回 のべ参加者数  
78人

令和3年6月6日(日)、令和4年1月9日(日)、3月5日(土)

## 博物館実習(学芸員実習)

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館又は博物館相当施設での実習により修得するものとされる。

当館の博物館実習(学芸員実習)は大学生を対象に、将来的な学芸員の養成や美術館の仕事への意識啓発を目的として、学芸員を中心とした各部署の業務を体験的に研修してもらう機会である。令和3年度は日程最初の2日間を対面形式、その後の8日間をオンライン形式で実施した。教育普及プログラム、企画展、収蔵作品についての講義の他に、一つの収蔵作品をテーマとしてグループ・ディスカッションを行い、まとめとして最終日に課題発表を行った。

受入日程：令和3年8月26日(木)～9月10日(金)のうち10日間

受入人数：8名

受入大学：埼玉大学、成城大学、学習院大学、女子美術大学、  
京都芸術大学大学院、八洲学園大学、東京工芸大学



## 収集の基本方針

平成元(1989)年2月3日(昭和63年度)策定

写真作品(オリジナル・プリント)を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

### [写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点収集作家(17名、五十音順)秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

### [写真資料]

- 1.出版物(写真集、専門書、雑誌)については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料(図録、チケット等)を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

### [写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

### [映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

### [作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上  
内訳:写真作品(国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上)

## 写真作品収集の指針 平成18(2006)年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会(自主展、収蔵展)で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
  - (1) 日本を代表する作家であること
  - (2) 国内外で評価が高いこと
  - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
  - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
  - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
  - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
  - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点収集作家(21人、五十音順)荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博
- 9.写真作品収集の新指針7に基づく第三期重点収集作家(14人、五十音順)、平成30(2018)年11月21日策定  
江成常夫、尾仲浩二、金村修、川内倫子、鬼海弘雄、鈴木理策、瀬戸正人、鷹野隆大、長島有里枝、ホンマタカシ、松江泰治、宮崎学、本橋成一、米田知子

## 令和3年度 東京都写真美術館 作品資料収集方針

### I 東京都購入

#### 1 購入作家及び点数

7組8作家 20点

#### 2 考え方

東京都写真美術館「収集の基本方針」に基づき策定した「令和3年度東京都写真美術館における収蔵品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。なお、令和3年度展覧会出品作家作品を計画的に収集し、質の高い展覧会事業を実現する。

(1) 東京都写真美術館の展覧会で取り上げる作家の写真・映像作品等、東京都写真美術館の美術館活動に資する作品を収集する。

新進作家作品：池田宏、小森はるか+瀬尾夏実、山元彩香、吉田志穂、潘逸舟

海外作家作品：アルフレッド・スティーグリッツ

(2) 写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家。

重点収集作家：石内都 〈ひろしま〉

### II 東京都写真美術館購入

#### 1 購入作家及び点数

7組11作家 14点

#### 2 考え方

「令和3年度東京都写真美術館における収蔵品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。

### 令和3年度収集点数：625点

【内訳】国内写真作品：467点 海外写真作品：145点 映像作品資料：12点 写真資料 1点

### 東京都写真美術館コレクション点数：36,899点

【内訳】国内写真作品：24,518点 海外写真作品：5,919点 映像作品資料：2,566点 写真資料：3,896点

(1) 写真・映像史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く体系的に収集するとともに、希少的価値のある作品を積極的に収集する。

希少価値の高い初期写真：作家不詳《函館のパノラマ》

(2) 写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家。

重点収集作家：畠山直哉 〈陸前高田〉

(3) 映像作品・資料について、以下を踏まえて収集を図る。

- ・国内外で評価の高い作家・作品であること。
- ・各映像ジャンルの代表的な作品であること。
- ・映像表現及び技術等の映像史において重要な役割を果たした作品であること。

足立正生、岩淵進、野々村政行、山崎裕、佐々木守、松田政男《略称・連続射殺魔》  
遠藤麻衣子：《空》（オンライン映画）  
藤幡正樹：令和4年度・映像展出品作品  
山元彩香：新進作家映像作品

(4) 東京都写真美術館の展覧会で取り上げる作家の写真・映像作品等、東京都写真美術館の美術館活動に資する作品を収集する。

野口里佳：シリーズ〈フジヤマ〉〈クマンバチ〉

### III 寄贈

18作家 591点 展覧会開催及び作品購入に伴う寄贈

【東京都購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
池田 宏	〈AINU〉	発色現像方式印画	550×700 他	4	2013-2016	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」 展出品作品
石内 都	〈ひろしま〉	発色現像方式印画	1080×740 他	4	2008-2020	第二期重点収集作家、令和3年度自主企画展「リバーシブルな未来」 展出品作品
山元 彩香	〈We are Made Grass, Soil, Trees, and Flowers〉	発色現像方式印画	1000×1000	3	2019	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」 展出品作品
吉田 志穂	〈砂の下の鯨〉	インクジェット・プリント	1100×800	4	2021	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」 展出品作品
アルフレッド・ステイグリッツ	《Equivalent》〈20 No.9〉より	ゼラチン・シルバー・プリント	118×91	1	1929	令和3年度収蔵展「光のメディア」 展出品作品
小森 はるか+ 瀬尾 夏実	《山つなみ、雨間の語らい》他	ミクストメディア 他	15分 他	2	2021	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」 展出品作品
潘 逸舟	《トウモロコシ畑を編む》他	2チャンネルビデオ、サウンドインストレーション	26分23秒	2	2021	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」 展出品作品
合計				20		

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
作家不詳	《函館のパノラマ》	鶏卵紙	195×783	1	c.1890	令和3年度収蔵展「写真発祥地の原風景」 出品作品
野口 里佳	〈クマンバチ〉他	発色現像方式印画	195×195他	4	2019他	令和4年度収蔵展「野口里佳」 出品予定作品
畠山 直哉	〈陸前高田〉	発色現像方式印画	208×259	5	2011-2019	第二期重点収集作家、令和3年度自主企画展「リバーシブルな未来」 展出品作品
足立 正生 他5名	《略称・連続射殺魔》	35ミリフィルム	86分	1	1969	令和5年度映像展出品予定作品
遠藤 麻衣子	《空》	オンライン映画	2K/4K/5.6K	1	2022	令和3年度恵比寿映像祭出品作品
藤幡 正樹	《ルスカの部屋》	インスタレーション	サイズ可変	1	2004	令和4年度映像展出品予定作品
山元 彩香	《organ #1 "Marta", Latbia》	シングルチャンネルビデオ	7分5秒	1	2019	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」 展出品作品
合計				14		

\*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

作品収集実績

【寄贈】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
池田 宏	〈AINU〉	発色現像方式印画	550×700 他	12	2012-2016	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」展出品作品。購入に伴う寄贈。
石内 都	〈ヒロシマ〉	発色現像方式印画	1080×740 他	5	2007-2020	第二期重点収集作家。令和3年度自主企画展「リバーシブルな未来」展出品作品。購入に伴う寄贈
桜井 秀	〈光の中に〉 他	ゼラチン・シルバー・プリント他	390×560 他	86	1993	作家本人より寄贈
澤田 知子	《ID400》 他	ゼラチン・シルバー・プリント他	1140×890 他	5	1998	令和2年度収蔵展「澤田知子」出品作品
高橋 恭司	〈Life Gose On〉	発色現像方式印画	232×294	3	1996	令和2年度「写真とファッション」出品作品
長島 有里枝	《直角三角形の光》 他	発色現像方式印画	470×700	5	2007	作家関係者からの寄贈
奈良 原一高	〈神々の地〉 他	ゼラチン・シルバー・プリント他	167×238 他	267	1961	ご遺族より寄贈
畠山 直哉	〈陸前高田〉	発色現像方式印画	208×259 他	22	2004-2020	第二期重点収集作家。令和3年度自主企画展「リバーシブルな未来」展出品作品。購入に伴う寄贈
比嘉 豊光	〈赤いゴーヤ〉	ゼラチン・シルバー・プリント	433×580	21	1970-72	令和2年度「琉球弧の写真」出品作品
山元 彩香	〈We are made of Soil, Grass, and Trees〉 他	発色現像方式印画	1000×1000 他	12	2014-2021	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」展出品作品。購入に伴う寄贈。
吉田 志穂	〈砂の下の鯨〉	インクジェット・プリント	1100×1650 他	4	2016-2020	令和3年度自主企画展「日本の新進作家vol.18」展出品作品。購入に伴う寄贈。
ナンシー・リー・カッツ	《マグダレーナ・アバカノヴィッチ》 他、シリーズ〈パンテノン〉	ゼラチン・シルバープリント	26.5×25.0	133	1976-2010他	個人からの寄贈
マウリシオ・ギジェン	〈Yoo Gunaa〉	インクジェット・プリント	182×145	10	2019-20	令和2年度「写真とファッション」展関連作品
馮 學敏	《棚田#21 年輪》	発色現像方式印画	80.0×119.2	1	2002	個人からの寄贈
作家不詳	《北海道アルバム》	鶏卵紙	345×275×60	1	1868-1912	令和3年度収蔵展「写真発祥地の原風景」出品作品
太田 和彦	《スイカを買った》	35ミリフィルム	10分	1	1996	オムニバス映画『しずかなあやしい午後』収録3篇の1篇
藤幡 正樹	《Beyond Pages》	インスタレーション	テーブル・デジタイザー・タブレット、PowerMac、専用ソフトウェア 他	1	1995	令和4年度以降映像祭、映像展出品予定作品
ビル・ヴィオラ	《The Reflecting Pool》 他	シングルチャンネル・ビデオ	7分 他	2	1977-1979	2作品を収めたU-maticテープとともに藤幡正樹氏より寄贈
合計				591		

# 令和3年度新収蔵作品の紹介

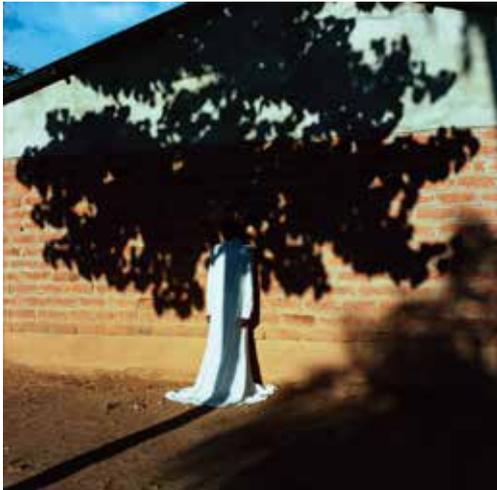
## 東京都購入案件



池田宏 《能取岬 網走市 2016年2月》〈AINU〉 2016 発色現像方式印画



石内都 《ひろしま #88》〈ひろしま〉 2010 発色現像方式印画



山元彩香 《Untitled #320, Mzimba, Malawi》〈We are Made of Grass, Soil, Trees, and Flowers〉 2019 発色現像方式印画



吉田志穂 無題 〈砂の下の鯨〉 2021 インクジェット・プリント



アルフレッド・スティーグリッツ 《イキヴァレント》〈20 No.9〉 1929 ゼラチン・シルバー・プリント



小森はるか+瀬尾夏美 《山つなみ、雨間の語らい》 2021 インスタレーション(写真、映像、サウンド、鉛筆、紙、水彩、アクリル、テキスト、資料)

令和3年度新収蔵作品の紹介  
東京都購入案件



潘逸舟 《トウモロコシ畑を編む》 2021 2チャンネルビデオ、サウンドインスタレーション

東京都写真美術館購入案件



作家不詳 函館港全景 明治25年頃 鶏卵紙



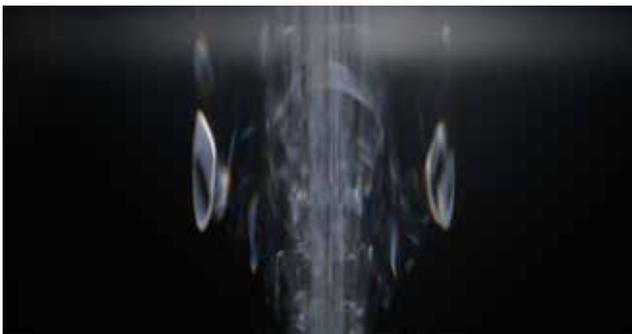
野口里佳 《クマンバチ #3》 2019 発色現像方式印画



畠山直哉 〈陸前高田〉《2014年12月7日 気仙町愛宕山》 2014 発色現像方式印画



足立正生 他5名 《略称・連続射殺魔》 1969 35ミリフィルム (86分/カラー/サウンド)



逸藤麻衣子 (オンライン映画より) 《空》 2022 2K/4K/5.6K



藤幡正樹 《ルスカの部屋》 2004 インスタレーション

令和3年度新収蔵作品の紹介  
東京都写真美術館購入案件



山元彩香 《organ #1 "Marta", Latvia》 2019 シングルチャンネルビデオ

【東京都写真美術館図録論文】

伊藤貴弘

「松江泰治のマキエタCC」『松江泰治 マキエタCC』展図録、東京都写真美術館、2021年、pp.75-76

関昭郎

「篠山紀信『晴れた日』の60年間」『新・晴れた日 篠山紀信』図録、光村推古書院書籍編集部、2021年、pp.8-15

関次和子

「宮崎学 イマドキの野生動物」『宮崎学 イマドキの野生動物』展図録、東京都写真美術館、2021年、pp.180-184

田坂博子

「INTRODUCTION」『第14回恵比寿映像祭コンセプトブック』東京都写真美術館、2022年、pp.12-19

山田裕理

「リバーシブルな未来：昨日、今日、明日」『リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真』展図録、ナタリー・キング共同執筆、東京都写真美術館、2021年、pp.6-13

「記憶は地に沁み、風を越え」『記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18』展図録、東京都写真美術館、2021年、pp.8-15

【東京都写真美術館紀要No.21】

丹治圭蔵

「インターネットアートにおけるミュージアム像の検討——エキソニモ『UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク インターネットアートへの再接続』展から」pp.17-27

戸部瑛理

「志賀理江子〈ブラインドデート〉について」pp.41-50

山田裕理

「金子隆一氏年譜」pp.5-15

山野井千晶

「怠情な余暇としての『準・映画』 エリオ・オイチシカの《コスモカ》に関する研究」pp.29-39

【寄稿】

伊藤貴弘

「ベルリン、ロンドン、パリ、東京——花代の百年プリント」花代『Keep an Eye Shut』torch press/Kehrer Verlag、2021年、pp.298-301

「『写真とファッション——90年代以降の関係性を探る』展」『Fashion Talks...』第13号、京都服飾文化財団、2021年、pp.70-71

「幻視するレンズ——川田喜久治とウジェーヌ・アジェ」『現代の眼』636号、東京国立近代美術館、2022年、pp.8-9

「石野郁和インタビュー『歴史や文脈を積み上げ、そこからいかに発展させるか』」IMA ONLINE、2021年、<https://imaonline.jp/articles/interview/20190201fumi-ishino/>

“On My Mind,” foam magazine, vol.60, p.4

「決して消えない光を集めること——奥山由之の写真について」奥山由之『BEST BEFORE』青幻舎、2022年、pp.474-475

「推薦理由」『VOCA展2022』展図録、上野の森美術館、2022年、p.80

「POPEYE FORUM」『POPEYE』2022年4月号、p.168

遠藤みゆき

「写真は永遠か？「不朽写真」としての写真陶磁器」『技術と文化のメディア論』梅田拓也・近藤和都・新倉貴仁編著、ナカニシヤ出版、2021年、pp.35-50

小澤万紀

「写真と映像資料のコンシェルジュ—東京都写真美術館図書室のレファレンス—」れふぁれんす三題嚙288『図書館雑誌』第115巻9号、公益社団法人日本図書館協会、2021年、pp.594-595

関次和子

「白川義員 天地創造 地球の美と神秘を追い求めて」、公明新聞4月18日

「山岳写真のあゆみ」、『山と溪谷』通巻第1046号、2022年1月1日、pp.60-61

「審査講評 写真」、『第56回 神奈川県美展中高生展』、p.39、神奈川県美術展委員会

「審査員講評」、公益社団法人日本写真家協会公募展 広告作品部門、2022年3月

田坂博子

「審査委員講評」ほか、『第25回文化庁メディア芸術祭受賞作品』、文化庁メディア芸術祭実行委員会、2022年3月13日公開、<https://j-mediaarts.jp/award/>

「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たちの記憶」『ユリイカ』2022年3月号、pp.97-98

「高谷史郎ロングインタビュー」（レパトリーの想像高谷史郎新作

関連企画)、ロームシアター京都

[前編] 2022年3月15日公開、

[https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/interview\\_takatani\\_1/](https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/interview_takatani_1/)

[後編] 2022年3月18日公開、

[https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/interview\\_takatani\\_2/](https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/interview_takatani_2/)

### 武内厚子

「写真芸術の世界 本城直季」、『版画芸術』第195号2022年3月、pp.108-113

### 浜崎加織

『奇想のモード』展図録、東京都庭園美術館、青幻社、2022年 pp.109,111

### 山口孝子

「2020年の写真の進歩、画像保存—展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第84巻3号、一般社団法人日本写真学会、2021年、pp.167-168.

## 【講演会・シンポジウム等】

### 伊藤貴弘

「奥山由之(写真家・映像監督)×伊藤貴弘(東京都写真美術館学芸員)～写真集『flowers』をめぐる対話～」、銀座 蔦屋書店、2021年7月31日

「令和3年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 復帰50年写真展へ向けた戦後沖縄写真史の再構築事業 クロストーク『琉球弧の写真』展と沖縄写真の現在 伊藤貴弘(東京都写真美術館)×北澤周也(批評家)」、沖縄県立博物館・美術館、2021年11月23日

「一般社団法人日本写真学会 第41回『写真好き』のための定例講演会」、オンライン、2021年11月30日

「一般社団法人日本現代美術商協会 CADAN Art Channel アーティスト・フィーチャー#02 松江泰治|東京都写真美術館×TARONASU」、オンライン、2021年12月13日

「ほとぼり通信31回 伊藤貴弘(東京都写真美術館学芸員)×戸田昌子(写真史家)『2021年、コロナ禍における写真展を語る』」、オンライン、2021年12月29日、2022年1月15日

### 田坂博子

「第24回文化庁メディア芸術祭」アート部門受賞者トークセッション(出演: Simon WECKERT、エキソニモ) オンライン、2021年9月30日オンライン公開

「令和3年度アートプラットフォーム事業 文化庁 現代アートワークショップ」福岡アジア美術館、オンライン、2022年1月29日

### 山田裕理

「令和3年度アートプラットフォーム事業 文化庁 現代アートワークショップ」福岡アジア美術館、2022年1月28日～30日

### 武内厚子

国立美術館 令和3年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」講師 東村山市立南台小学校との連携授業についての事例発表、オンライン、2021年12月5日

慶應義塾大学アート・センター「アクセシビリティ検討ワーキング・グループ」講師「美術館で取り組む「多様な」インクルーシブワークショップ」、慶應義塾大学三田キャンパス、2022年2月25日

「本城直季(un) real utopia」展オープニング記念トーク、登壇者本城直季・武内厚子、東京都写真美術館1Fホール、2022年3月19日

### 遠藤みゆき

第38期第3回研究会「素材と分解のメディア論——『技術と文化のメディア論』(2021年ナカニシヤ出版)から出発して」、日本メディア学会(理論研究部会・オンライン)、2022年2月13日

### 多田かおり

映画『エル プラネタ』一般試写会トークイベント、東京都写真美術館(主催:株式会社シンカ) 2021年12月15日

## 【非常勤講師等】

### 石田哲朗

東京都立大学オープンユニバーシティ「日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ第3弾・東京都写真美術館 写真と映像の時代を読み解く」オンライン、10月14日、28日、11月11日、25日

東京造形大学「博物館実習III」オンライン、12月7日

### 伊藤貴弘

東京藝術大学美術学部「写真映像論」2021年7月13日

「KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭」ポートフォリオレビュー、2021年9月18日、19日

日本写真芸術専門学校「特別ワークショップ」、2021年11月27日

### 遠藤みゆき

明星大学「博物館経営論」春学期

「博物館概論」「博物館情報・メディア論」秋学期

### 関次和子

多摩美術大学「芸術学科学芸員課程科目・博物館実習R1」2021年8月31日

## 武内厚子

跡見学園女子大学「写真論」秋学期

## 田坂博子

明治学院大学「デジタルアート論A/デジタルアート論1A」春学期  
東京藝術大学「写真映像論」オンライン、2021年4月27日、5月11日

## 多田かおり

青山学院大学文学部日本文学科「日本文学特講II [11]」ゲストスピーカー（動画配信）

## 平澤綾乃

金沢美術工芸大学「博物館経営論」2021年11月22日

## 藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「写真史」2021年秋季  
九州産業大学大学院「写真特殊演習（写真の現場）」2021年11月18日、19日

## 山口孝子

東海大学課程資格教育センター「博物館学実習I写真技術」春学期・秋学期集中（動画配信）  
独立行政法人東京文化財研究所、令和3年度「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（基礎コース）」、2022年1月20日

## 山田裕理

明治学院大学「現代社会と芸術3B」秋学期

## 【委員・審査員等】

### 伊藤貴弘

「KG+SELECT」審査員

「VOCA展2022」推薦委員

「令和3年度（第72回）東京都立高等学校校定時制通信制芸術祭写真部門」審査委員

### 錦木あづさ

アート・ドキュメンテーション学会『通信』編集協力委員

中原佑介美術批評選集編集委員

### 関次和子

高知県立美術館運営委員会委員

神奈川県美術展委員、神奈川県美術展審査員（写真部門）

目黒観光写真コンクール審査員

横浜市美術資料収集審査委員会

公益社団法人日本写真家協会公募展 広告作品部門審査委員

令和3年度大学における文化芸術推進事業（東京工芸大学）外部  
評価委員

## 武内厚子

第55回かわさき市美術展写真部門審査員

## 田坂博子

Sheffield Doc/Fest: Sheffield International Documentary  
Festival（シェフィールド・ドキュメンタリー国際映画祭）審査員  
第25回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員  
多摩美術大学大学院課程博士学位審査外部審査委員

## 藤村里美

日本写真芸術学会理事

## 山口孝子

日本写真学会理事

日本写真学会画像保存研究会委員

日本写真保存センター諮問委員

国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員

国立民族学博物館共同研究員

## 【インターン】

東京都写真美術館では、平成20年度からインターン制度を導入している。令和3年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、展覧会事業補助、作品管理業務補助等を担当し、将来の美術活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

## 丹治圭蔵

担当業務：第14回恵比寿映像祭（展覧会事業補助）、作品管理補助  
指導員：田坂博子

期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

## 戸部瑛理

担当業務：松江泰治展、第14回恵比寿映像祭（展覧会事業補助）、  
作品管理補助

指導員：伊藤貴弘

期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

## 山野井千晶

担当業務：「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展、「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家vol.18」展、「TOPコレクション メメント・モリと写真」展（展覧会事業補助）、  
作品管理補助

指導員：山田裕理

期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

調査研究・普及活動  
(アーカイブ研究講習会)

映像音響資料の保存管理および各種アーカイブ構築の技術と実践に係る専門機関や教育機関、研究者、技術者および関連企業等との研究および情報交流の機会として、アーカイブ研究講習会を、平成29年度より毎年定期的を実施している。5年目となる今回は、当館収蔵のキネトスコープの修復業務を行い、8ミリフィルムのワークショップなどを行い、フィルム作品を中心とした活動を行っている、南俊輔、石川亮両氏を招き、フィルム作品に関する取扱い、および修復の事例を中心とした講演をとディスカッションをオンラインで行った。

第5回アーカイブ研究講習会（オンライン開催）

「フィルム作品保存修復とアーティストのフィルム作品制作の関わり方」

講師：南俊輔、石川亮

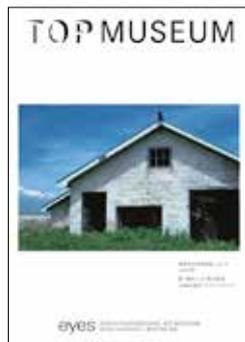
視聴回数：79回

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けた令和3年度は、お客様に安心して美術鑑賞をお楽しみいただけるよう、展覧会、上映、図書室等の活動を紹介するとともに、さまざまなメディアを使って当館の事業と施設の安全面を幅広くアピールした。特に、動画コンテンツをはじめSNSメディアの利用など、当館に来館することが難しい人にもリーチするための広報を積極的に実施した。

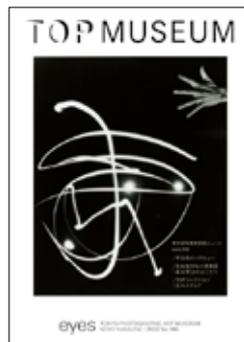
## 1 広報誌発行

### a. 「東京都写真美術館ニュースeyes (アイズ)」 (vol.105～vol.108)

季刊、発行部数：105号5,000部、106号・107号8,000部、108号10,000部  
 〈巻頭記事・メインテーマ〉  
 105号「新・晴れた日 篠山紀信」  
 106号「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真館」  
 107号「松江泰治 マキエタCC」  
 108号「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」「TOPコレクション 光のメディア」



eyes105号



eyes108号

### b. 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」 vol.124～vol.135



124号



133号

## 2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会についてプレスリリースを制作し、展覧会開催の2ヶ月前を目途に、マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に配布した(約700件)。同時に美術館を中心に、A4チラシとB3ポスターの配布をおこなった(約330件)。チラシ・ポスターは館内および財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や「あ・ら・かるちゃー文化施設運営協議会」関係施設にも配布した。

## 3 プレス対応

令和3年度は、展覧会、教育普及事業などに関する取材依頼に対応した。プレスには、バラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家や担当学芸員へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するため柔軟に対応した。令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、プレス内覧会を説明会形式に変更し、安全面に配慮しながら展覧会および次年度の展覧会ラインナップを発表した。また、広報東京都、Tokyo Tokyo Festivalなど、東京都、財団への情報提供もおこなった。

### a. プレス内覧

展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)  
 「新・晴れた日 篠山紀信」(令和3年6月7日、47媒体、58名)  
 「山城知佳子 リフレーミング」(令和3年8月16日、23媒体、48名)  
 「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」 「宮崎学 イマドキの野生動物」(令和3年8月23日、30媒体、61名)  
 「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」 「松江泰治 マキエタCC」(令和3年11月8日、39媒体、74名)  
 「第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後」(令和4年2月3日、31媒体、34名)  
 「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」 「TOPコレクション 光のメディア」(令和4年3月2日、21媒体、23名)



「新・晴れた日 篠山紀信」 プレス説明会より



「山城知佳子 リフレーミング」 プレス説明会より



「宮崎学 イマドキの野生動物」 プレス説明会より



「記憶は地に沁み、風を越え」プレス説明会より



「松江泰治 マキエタCC」プレス説明会より

#### b. 展覧会広報記録

展覧会名（テレビ・ラジオ、新聞、雑誌）

「白川義員写真展 永遠の日本／天地創造」（1件、58件、42件）

「澤田知子 狐の嫁いり」（4件、28件、41件）

「新・晴れた日 篠山紀信」（4件、50件、63件）

「山城知佳子 リフレーミング」（1件、34件、26件）

「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」（2件、53件、33件）

「宮崎学 イマドキの野生動物」（3件、52件、37件）

「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」（0件、51件、26件）

「松江泰治 マキエタCC」（3件、47件、41件）

「第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後」（1件、62件、10件）

「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」（1件、5件、6件）

「TOPコレクション 光のメディア」（2件、2件、5件）



「松江泰治」読売新聞掲載記事（令和4年1月5日）

#### c. 教育普及プログラム取材

NHKEテレ『高校講座 美術I』（4月29日放送）

### 4 オンラインを活用した広報

ホームページでは、展覧会関連動画のコンテンツアップを積極的に行い、作家インタビュー、展示作品紹介に加え、リアルイベントに代わるオンラインでのギャラリーツアー、トーク、シン

ポジウムなど、多彩なラインナップで展覧会を多角的に紹介し、展覧会への来館促進とともに、当館展覧会の開催意義を広く伝える発信に努めた。2021年4月～2022年3月までのページビュー総数は4,450,870PVで前年比152.8%と、コロナ前の数値に戻りつつある。また、公式ツイッターおよびインスタグラムそれぞれの特性を活かして、展覧会開催、ワークショップの募集など魅力的かつ迅速に発信した。



東京都写真美術館PR動画より

#### a. 「白川義員写真展 永遠の日本／天地創造」

作家インタビュー動画を継続公開した。（合計再生回数：4,472回）また、関連イベントとして1階ホールで開催したアーティスト・トークのアーカイブ映像（一部抜粋、再生回数：568回）を公開したほか、会期中で臨時休館したため、展示室の動画も追加で公開した。（再生回数：453回）

#### b. 「澤田知子 狐の嫁いり」

作家インタビュー（再生回数：3,637回）と展示風景の動画（再生回数：22,754回）を公開した。

#### c. 「新・晴れた日 篠山紀信」

写真家・篠山紀信氏が本展への想いや、作品制作の背景を語った作家インタビュー動画を公開した。（再生回数：25,878回）

#### d. 「山城知佳子 リフレーミング」

展示風景の動画（計2本、再生回数：合計3,482回）や、作家インタビュー（再生回数：1,292回）のほか、新しい試みとして、最新作《リフレーミング》出演者による全編英語で撮影したバーチャルイングリッシュギャラリーツアー動画（再生回数：401回）を公開した。また、関連トークをオンラインで実施した。（全3回、再生回数：合計1,172回）

#### e. 「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」

展示風景の動画を公開した（再生回数：1,011回）。また、関連イベントとして「オンライン国際シンポジウム」を3日にわたり開催した。（全3回、再生回数：1,981回）

#### f. 「宮崎学 イマドキの野生動物」

作家の拠点である長野県・駒ヶ根でおこなった作家インタビュー（再生回数：1,213回）のほか、期間限定で展示室のバーチャル3D映像も公開した。また、関連イベントとして1階ホールで開催したアーティスト・トーク「自然から学ぶ4日」をアーカイブ映像として公開した。（再生回数：合計1,609回）

**g. 「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」**

展示風景の動画（再生回数：2,225回）に加え、5組の作家によるインタビュー全5本を公開した。（再生回数：合計3,470回）

**h. 「松江泰治 マキエタCC」**

作品を疑似鑑賞できるPR動画を公開した。（再生回数：2,142回）

**i. 「第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後」**

ニコニコ美術館（令和4年2月3日19:00より生配信、視聴回数：17,820回、コメント：4,873件）

**j. 「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」**

ニコニコ美術館（令和4年3月23日19:00より生配信、視聴回数：14,753回、コメント：6,717件）

**k. 「TOPコレクション 光のメディア」**

ニコニコ美術館（令和4年3月23日19:00より生配信、視聴回数：14,753回、コメント：6,717件）



「山城知佳子 リフレーミング」バーチャルイングリッシュギャラリーツアーより



「第14回恵比寿映像祭」ニコニコ美術館より

**5 広告出稿**

年間を通じて、さまざまな媒体に展覧会や館広報のための広告を出稿した。SNS広告に加え、交通広告（車内サイネージ、駅構内サイネージ等）など幅広いターゲットに届く広告出稿をおこなった。

**a. 「新・晴れた日 篠山紀信」**

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（7月19日～8月3日、8月4日～8月14日）合計表示回数：1,846,699回
- ・ユーチューブ ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（7月19日～7月28日、8月3日～8月14日）合計表示回数：

360,779回

- ・京王線、京王新線、新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（6月14日～7月25日）

**b. 「山城知佳子 リフレーミング」**

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（9月28日～10月10日）表示回数：203,072回
- ・フェイスブック ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（9月21日～10月4日）表示回数：326,994回

**c. 「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」**

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（10月1日～10月17日）合計表示回数：247,512回
- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（10月1日～10月10日）合計表示回数：294,660回
- ・『東京新聞』朝刊、都内版、終面全5段カラー、約45万部（8月29日）
- ・『東京新聞』夕刊、都内版、中面全5段カラー、約15万部（9月17日、10月8日）

**d. 「宮崎学 イマドキの野生動物」**

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（9月30日～10月15日）表示回数：205,496回
- ・ユーチューブ ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（9月30日～10月9日）表示回数：121,409回
- ・京王線、京王新線、新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（8月24日～10月31日）
- ・『岳人』11月号タイアップ広告出稿

**e. 「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」**

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（12月27日～1月22日）合計表示回数：1,212,896回
- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（12月27日～1月22日）合計表示回数：707,558回
- ・『東京新聞』出稿
- ・京王線、小田急線、東京メトロ千代田線 車内サイネージ広告（令和4年1月17日～23日）
- ・『東京新聞』出稿、朝刊、都内版、テレビ面全3段カラーおよびミュージアム企画、全5段うち1/6枠カラー、約45万部（令和4年1月14日）

**f. 「松江泰治 マキエタCC」**

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（12月27日～1月9日）表示回数：309,809回
- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（12月27日～1月9日）合計表示回数：388,755回

**g. 「第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後」**

- ・サイネージ広告、東京メトロMetro Concourse Vision (MCV) 15駅304面（令和4年1月31日～2月13日）

- ・サイネージ広告、東急お知らせモニター52駅/84面（令和4年1月31日～2月6日）
- ・サイネージ広告、JR東日本「J-ADビジョン」 恵比寿駅西口（令和4年1月31日～2月20日）
- ・ポスタ広告、東急代官山駅 一般駅貼り/B1×2枚（令和4年2月4日～2月17日）

**h. 「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」**

- ・JR山手線まど上チャンネルスポットCM15秒（令和4年3月21日～3月27日）
- ・JR東日本J・ADビジョン恵比寿駅西口15秒、8面3柱（令和4年2月28日～3月27日）
- ・東京メトロMetro Concourse Vision (MSV) 恵比寿駅15秒、6面3柱（令和4年3月1日～3月31日）
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上（令和4年3月18日～3月27日）表示回数：660,774回

**i. 「TOPコレクション 光のメディア」**

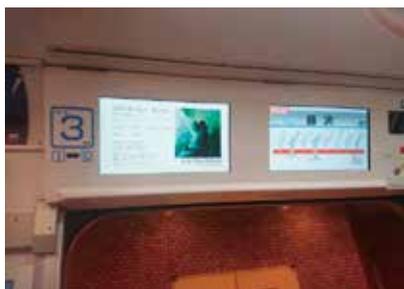
- ・JR山手線まど上チャンネルスポットCM15秒（令和4年3月21日～3月27日）
- ・JR東日本J・ADビジョン恵比寿駅西口15秒、8面3柱（令和4年2月28日～3月27日）
- ・東京メトロMetro Concourse Vision (MSV) 恵比寿駅15秒、6面3柱（令和4年3月1日～3月31日）

**j. 館広報**

- ・ヤフージャパン ブランドパネル・YDNバナー・インフィード広告、1都3県、20歳以上（9月17日～9月23日）
- ・京王線、京王新線、新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（11月15日～令和4年1月23日）



「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」『東京新聞』（8月29日、9月17日、10月8日）



「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」『小田急線車内サイネージ』（2022年1月17日～1月23日）



「第14回恵比寿映像祭」『スカイウォーク・バナー』（1月24日～2月20日）



「TOPコレクション 光のメディア」『幕末明治のはこだて』『JRまどうえサイネージ』（3月21日～3月27日） 後送

**6 インバウンド広報**

**e-flux**

世界各国の美術館や美術関係機関がプレスリリースを共有する大規模なメーリングリストである「e-flux」を利用して、「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」の展覧会とオンライン国際シンポジウムの告知を行った。

配信日：8月22日、10月13日

配信数：

電子メール：60,000人以上（開封率最大23%）

SNS (Facebook、Twitter、Instagram)：300,000人以上

e-fluxアプリ：16,000人以上

サイトアクセス数：500,000人/月



**7 屋外掲出（年間契約、有料）**

**恵比寿ガーデンプレイス周辺広告**

- ・スカイウォーク電飾看板
- ・ポスターボード
- ・自立サイン看板
- ・三連ショーウィンドウ（10月26日）

**美術館外壁**

- ・巨大写真ディスプレイ
- ・懸垂幕

## JR恵比寿駅周辺広告

- ・ポスター（東口／恵比寿ガーデンプレイス方面）
- ・サイン看板（西口／日比谷改札方面）



自立サイン看板



三連ショーウィンドウ



スカイウォーク電飾看板



JR恵比寿駅ポスター



懸垂幕



巨大写真



JR西口サイン看板

## 8 財団との広報連携

ニコニコ美術館（「新・晴れた日 篠山紀信」展、6月10日19:00より生配信）

Welcome Youth 特集コンテンツ「コレクションを楽しもう」（事業企画課長 関次インタビュー掲載、3月公開）

## 9 地域との広報連携

### 恵比寿ガーデンプレイス（YGP）との広報展開

- ・YGPホームページ  
YGPの運営するウェブサイトへ展覧会および上映情報を随時掲載し、利用者への情報発信を行った。
- ・オフィスワーカー割引  
YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの観覧割引サービスと、当館チケットをお持ちの方へのYGP内店舗でのサービス提供を行った。
- ・デジタルサイネージ  
恵比寿ガーデンプレイス内施設情報紹介



デジタルサイネージ紹介例